

明日香村の現況について

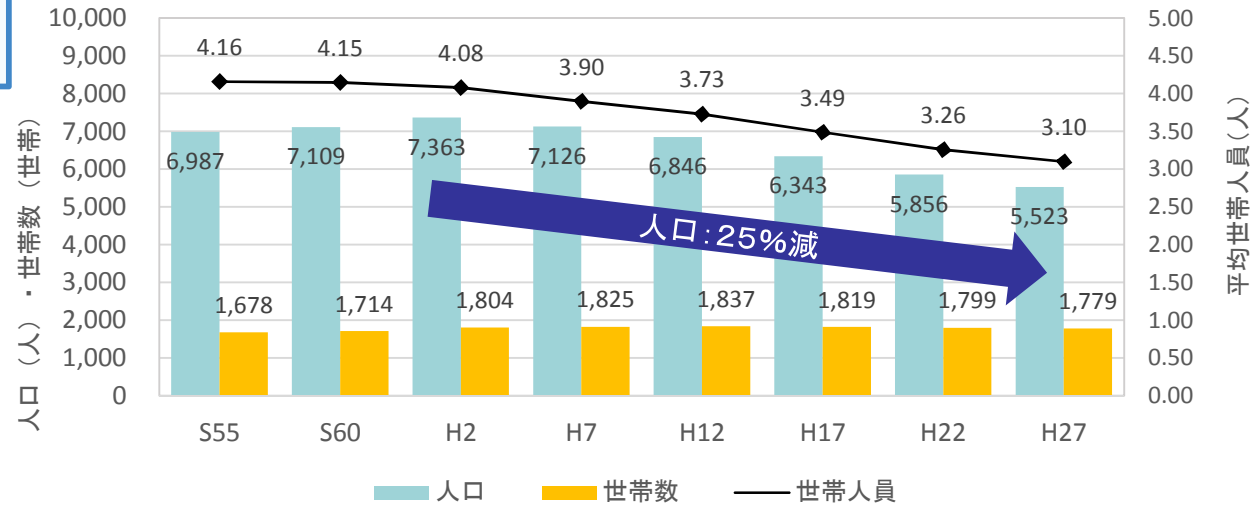
平成2年以降、人口減少が著しく、近隣自治体と比較してもその割合が高い。
平成29年4月には、過疎地域に指定された。

人口は、平成2年以降、年々減少し、平成27年人口は、平成2年比で-25%にまで減少した。

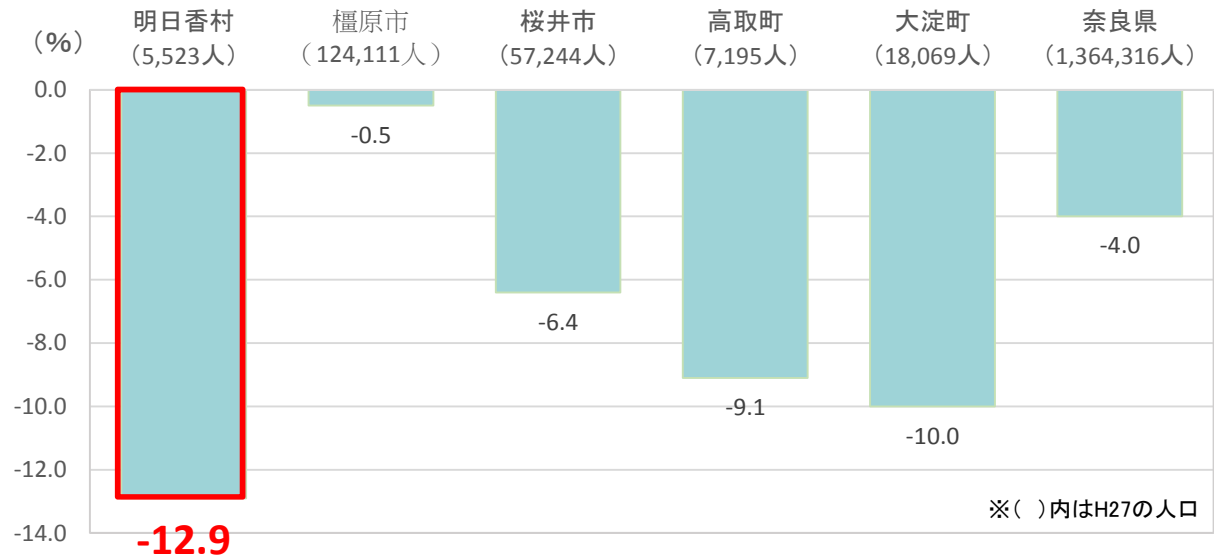
人口減少が進む一方で、世帯数の減少はあまり見られず、核家族化が進行。

近隣自治体との人口減少率を比較しても、-12.8%（平成17年～平成27年）と人口減少率が非常に高く、H29年4月には過疎地域に指定された。

人口・世帯数・平均世帯人員の推移



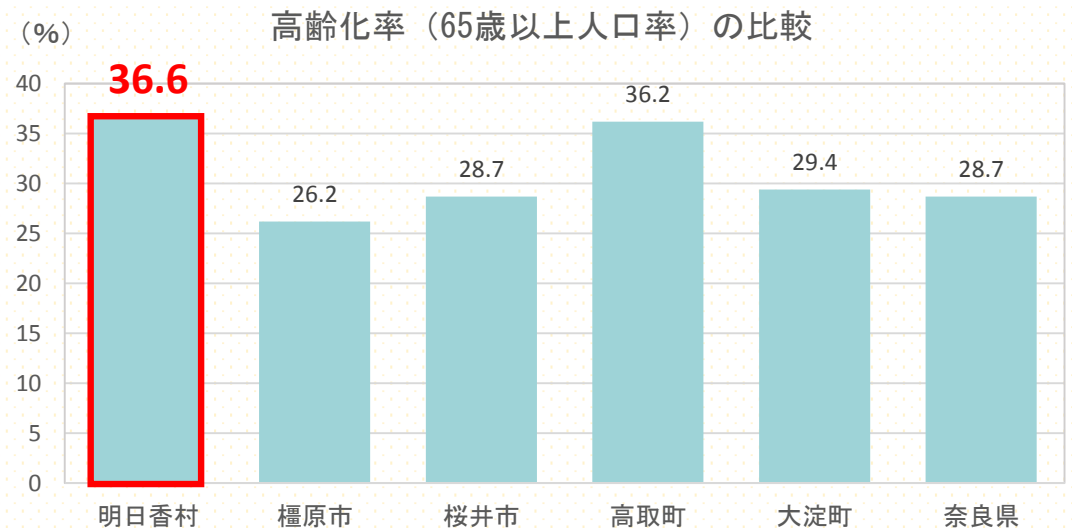
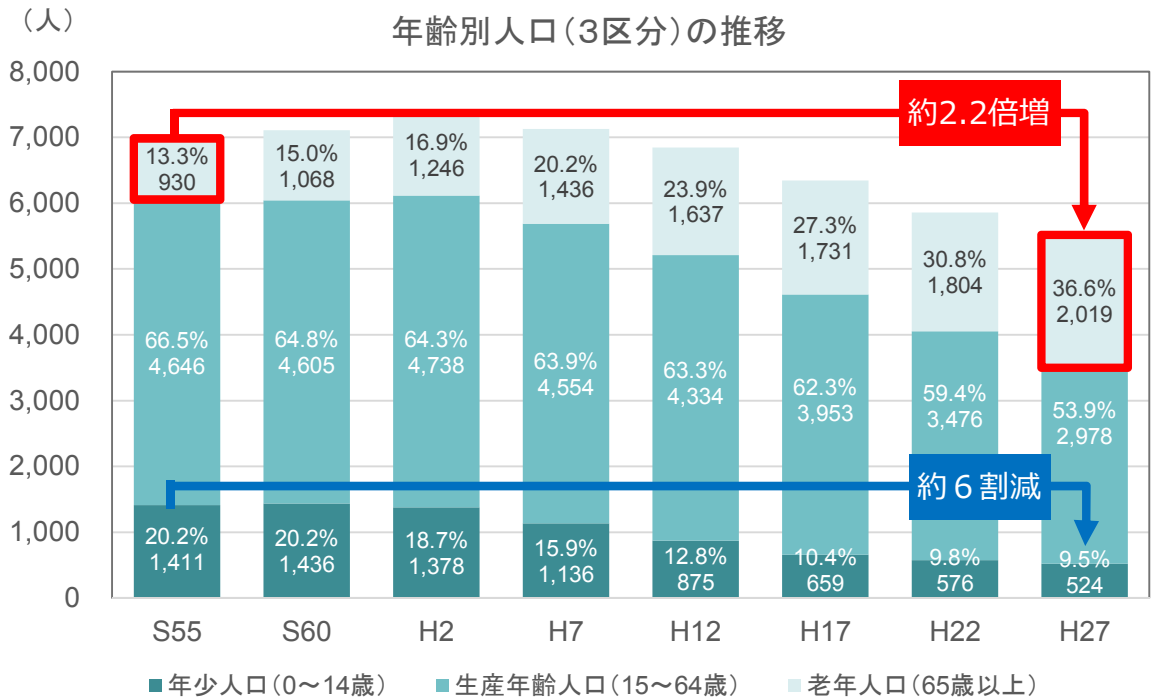
近隣自治体との人口減少率の比較（平成17年～平成27年）



昭和55年以降、少子高齢化が加速的に進行

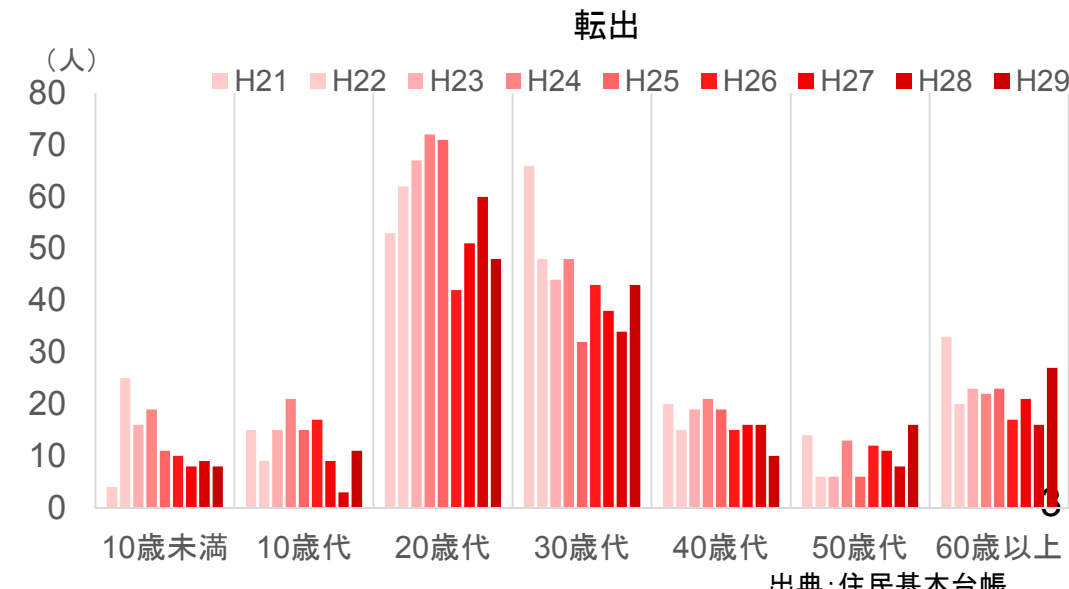
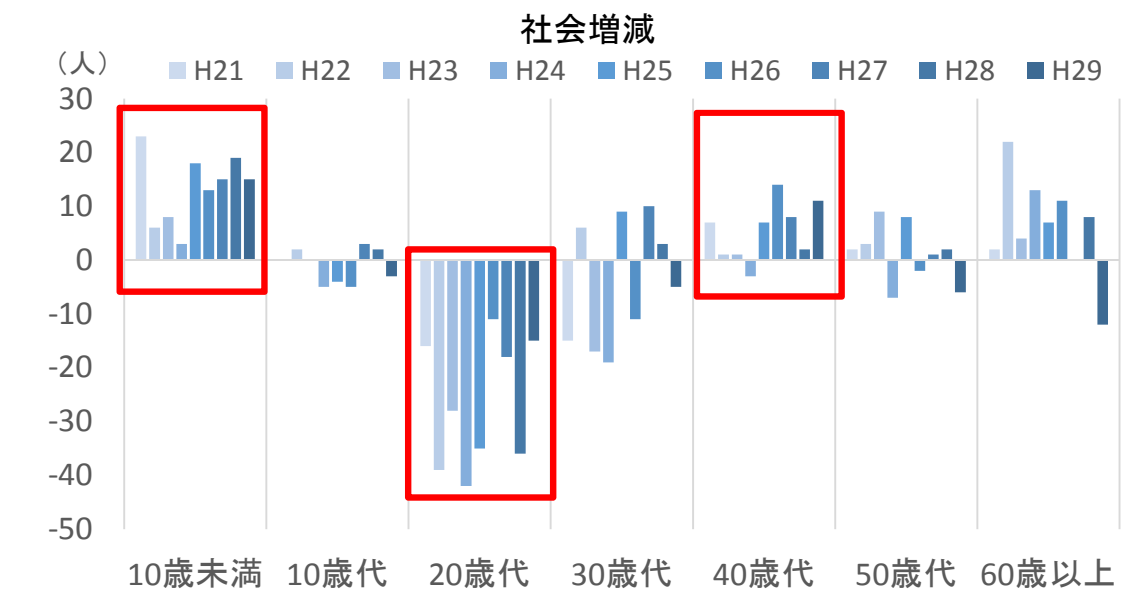
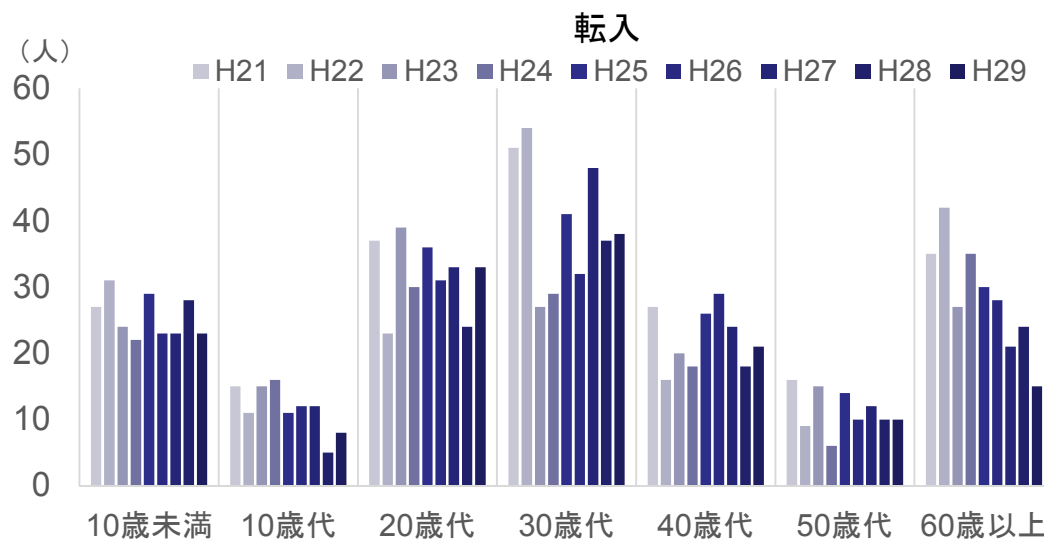
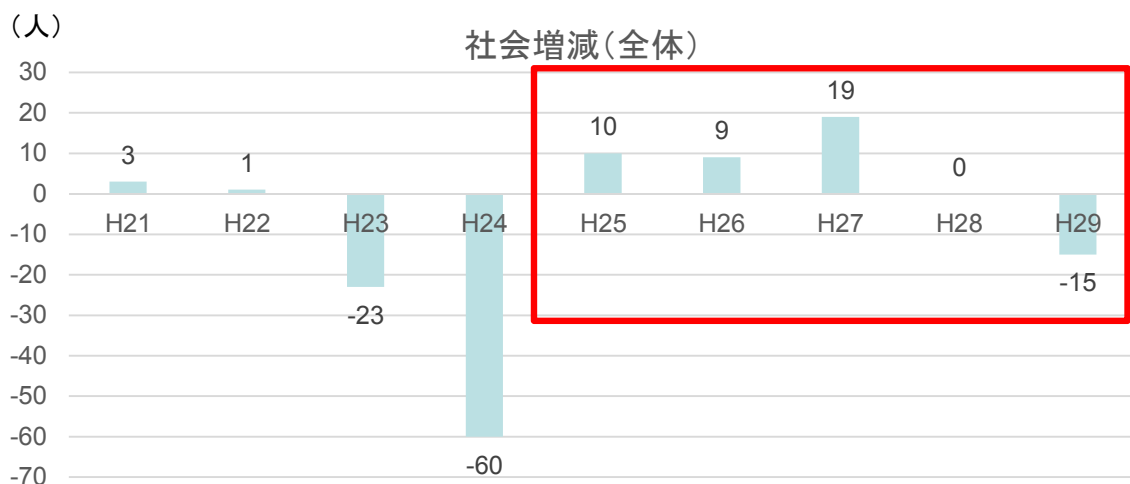
- ・ 65歳以上：S55 → H27 約 2.2倍増
- ・ 15歳未満：S55 → H27 約 6割減

- ・ 明日香法制定時（昭和55年）以降、高齢化率（65歳以上人口率）が増加しており、高齢化が着実に進行している。
- ・ その一方で、S55年以降、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）が急速に減少している。
- ・ 明日香村の高齢化率は、近隣自治体と比較しても、36.6%と非常に高い割合となっている。



人口動態

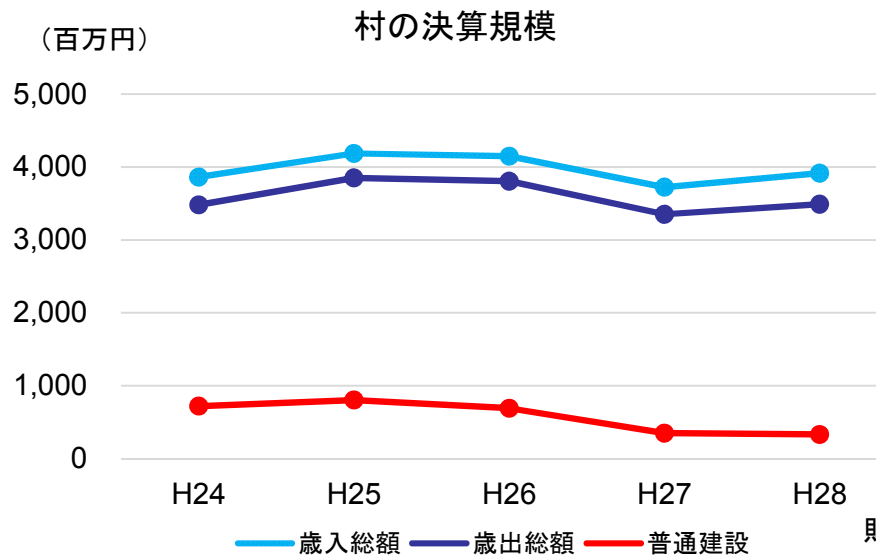
- ・ 全体の社会増減では、H25年以降増加傾向が続いていたが、H29年には減少に転じた。
- ・ 年代別社会増減の状況を見ると、20歳代は社会減の状態が続いている一方、40歳代の親世代と10歳未満の子どもは社会増の状態となっている。



村の財政状況

財政規模の縮小傾向が緩和されたものの、地方交付税への依存度が近隣自治体と比較しても高い状況にある。

- ・ H28年度の歳入総額は39億17百万、歳出総額は34億92百万となっており、実質収支額は黒字となっている。
- ・ 一方、歳入のうち、市町村税が占める割合が11%程度と低い状況。
- ・ また、地方交付税が占める割合が約44.8%と高く、地方交付税への依存率が高い。
- ・ そのため、財政力指数が0.236（H28）と低く、近隣自治体と比較しても低い状態であり、財政基盤が脆弱である。



財政力指数の比較

H28	
明日香村	0.236
橿原市	0.701
桜井市	0.524
高取町	0.323
大淀町	0.449
奈良県平均	0.395

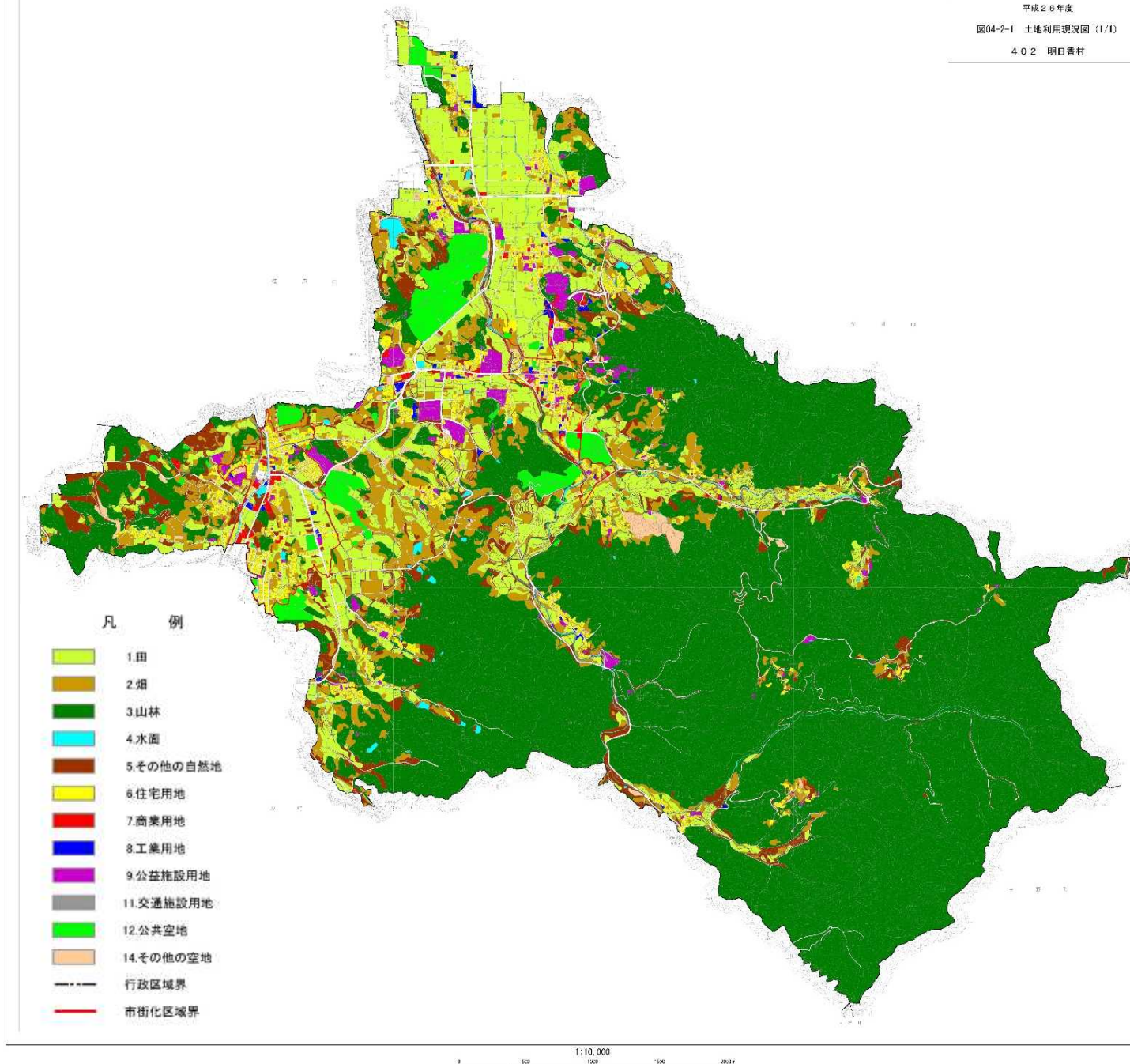
財政力指数 = 基準財政収入額 ÷ 基準財政需要額
出典: 奈良県資料(奈良県市町村要覧)

近隣自治体との財政状況の比較

H28年度(%)	歳入に占める市町村税比率	歳入に占める地方交付税比率	経常収支比率
明日香村	11.1	44.8	93.1
橿原市	36.7	14.5	97.3
桜井市	26.6	24.4	104.7
高取町	18.3	41.3	92.8
大淀町	25.2	33.3	92.9
奈良県平均	30.3	22.2	97.4

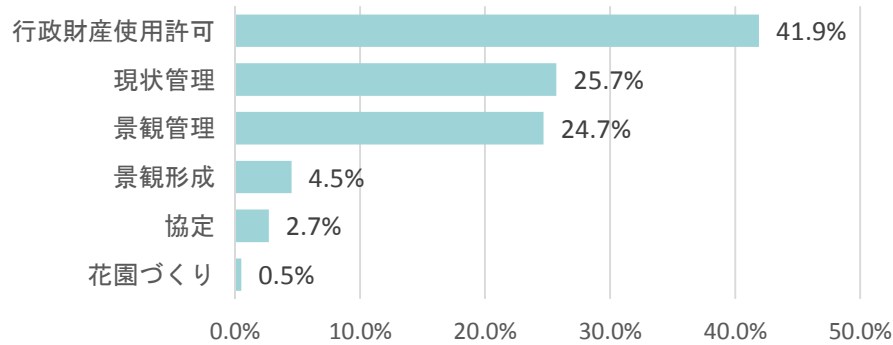
出典: 奈良県資料(奈良県市町村要覧)

- ・ 村内の8割は農地及び山林で占められており、田は北部にまとまって分布するほか、西部や北東部の丘陵地や東部の山地において、傾斜地を活用した棚田が分布している。
- ・ 宅地は近鉄飛鳥駅周辺及び岡周辺において市街地を形成し、その他は集落形態で分布している。



古都保存法による買入れ地は、現在約68ha以上に達している。古都法買入れ地面積の緩やかな増加の一方、維持管理費の減少、広範囲に点在していること等が維持管理を困難にしている。

買入れ地の管理形態 (H29.3.31 現在)

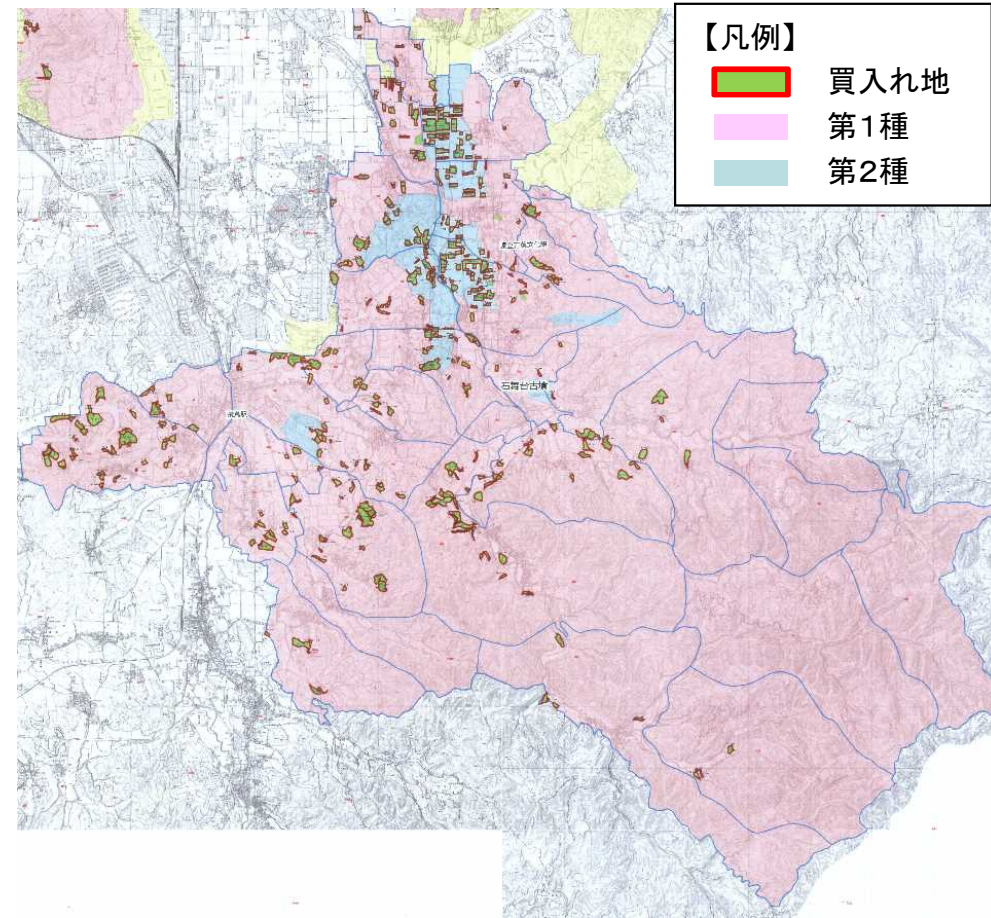
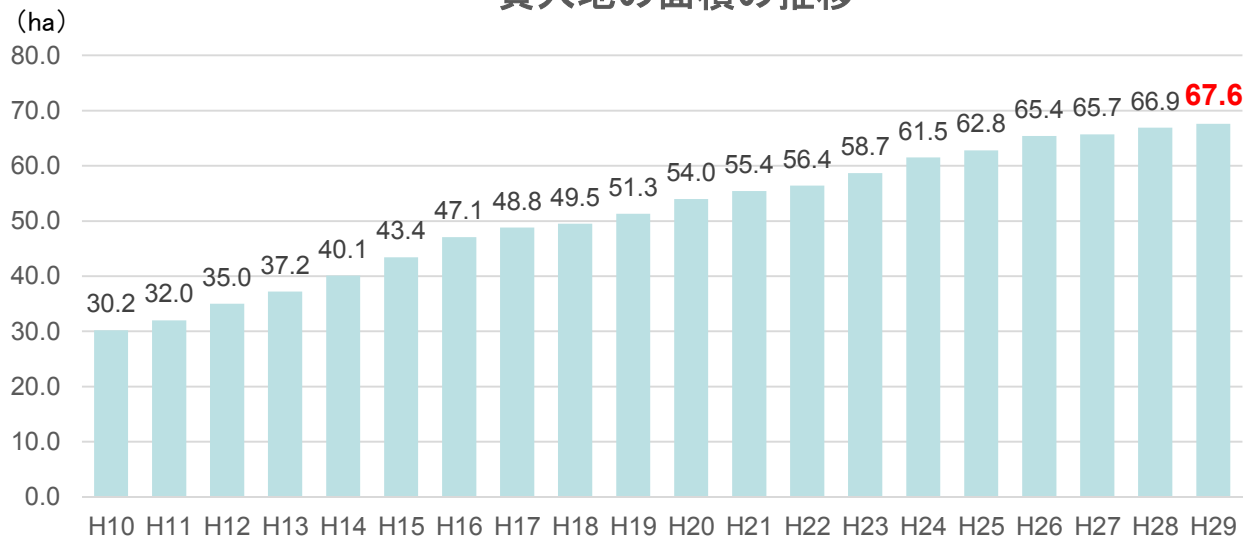


【凡例】

- 行政財産使用: 「県から村などに貸出(実際は村が一括で借り、地域住民に稲作を行ってもらう)」による管理
- 現状管理: 特に管理は実施していない(山林等)
- 景観管理: 「除草」等による管理
- 景観形成: 「ボランティア団体等による景観づくり」による管理
- 協定: 県と明日香村が管理協定を締結し、明日香村が管理(明日香村近隣公園等)
- 花園づくり: 「コスモス・ハナナの花づくり」による管理

出典: 奈良県調べ

買入れ地の面積の推移

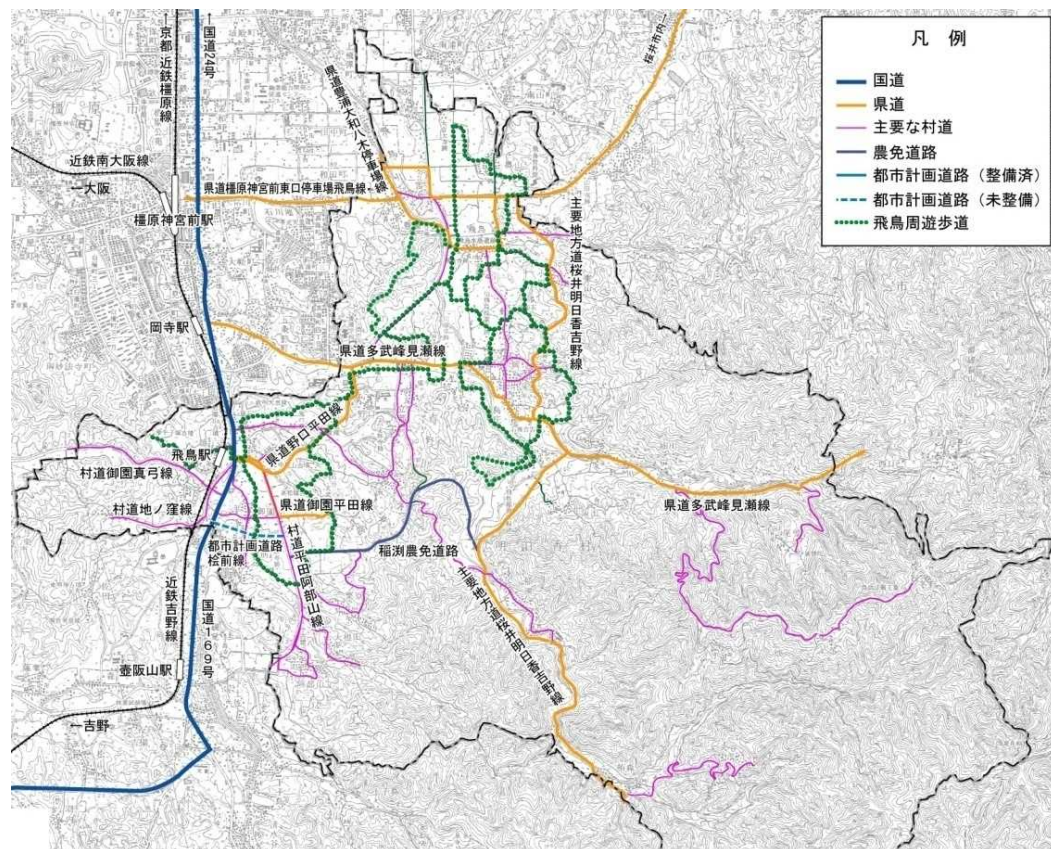


奈良県明日香村における買入れ地の分布状況 (平成28年度末時点) (提供: 奈良県)

出典: 奈良県調べ

- ・明日香村の公共交通機関となる近鉄吉野線「飛鳥駅」まで、大阪から約45分、京都から約70分。
- ・村内を南北に国道169号が通過するほか、県道、村道が整備されている。
- ・徒歩や自転車による周遊観光のため、国営公園や史跡等をネットワーク化する周遊歩道や、周遊歩道を補完するネットワーク道路が整備されている。
- ・村内の観光周遊は自動車(48.1%)、徒歩(14.6%)、自転車(14.4%)が主体であり、その他「かめバス」や路線バスの利用(11.8%)などがある。(平成29年明日香村観光実態調査報告書)

道路網図



明日香村 ◆道の駅「飛鳥」の開設

- ・国道169号沿いにH30.9開駅
- ・面積: 8,371m²
- ・施設: 駐車場52台、トイレ18器、休憩・情報コーナー、情報提供施設(飛鳥びとの館)、あすか夢販売所



「飛鳥」開駅式典の様子

明日香村 ◆「飛鳥」ナンバーの認定申請

- ・H30.2に飛鳥川沿いの明日香村、橿原市、高取町、田原本町、三宅町の5自治体、観光協会、商工会等からなる「飛鳥ナンバー協議会」が発足し、「飛鳥」ナンバーの導入に向けて申請を行った。H32年度より、本ナンバープレートが導入される。



・全体としては歴史的風土がおおむね良好に維持保存されているものの、歴史的風土や景観に馴染まない建築物・工作物や、農地・樹林地の荒廃などの課題がみられる。

○明日香の歴史的風土

- ・明日香法制定後40年以上が経過しようとしている今も全体としては歴史的風土が概ね良好に維持保存されている。
- ・平成23年に明日香村景観計画を策定し、大字毎の景観計画を7地区で策定しており、今後取組の推進を図る必要がある。



甘樫丘からの眺望



飛鳥宮跡の景観



農地・集落・丘陵・山地が調和した景観



棚田・里山などのふるさと景観

○歴史的風土や周辺の景観に馴染まない建築物・工作物や耕作放棄地

- ・歴史的風土や周辺の景観に馴染まない建築物や工作物等の個別の課題が散見される。



既存不適格建物の役場庁舎



様々な要素が混在する街路景観



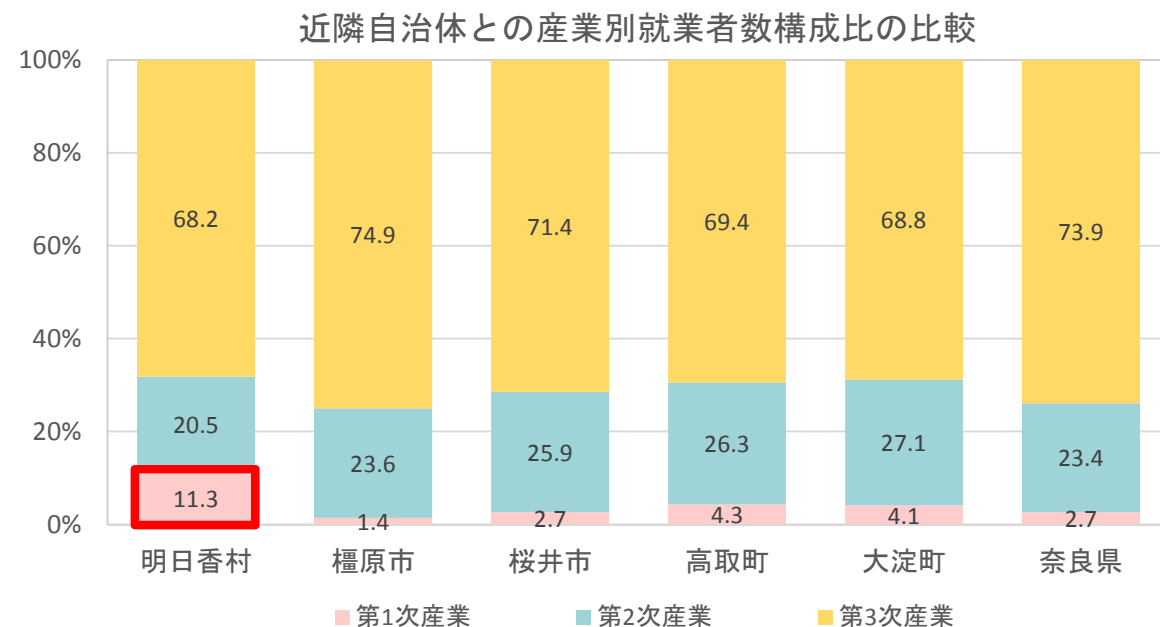
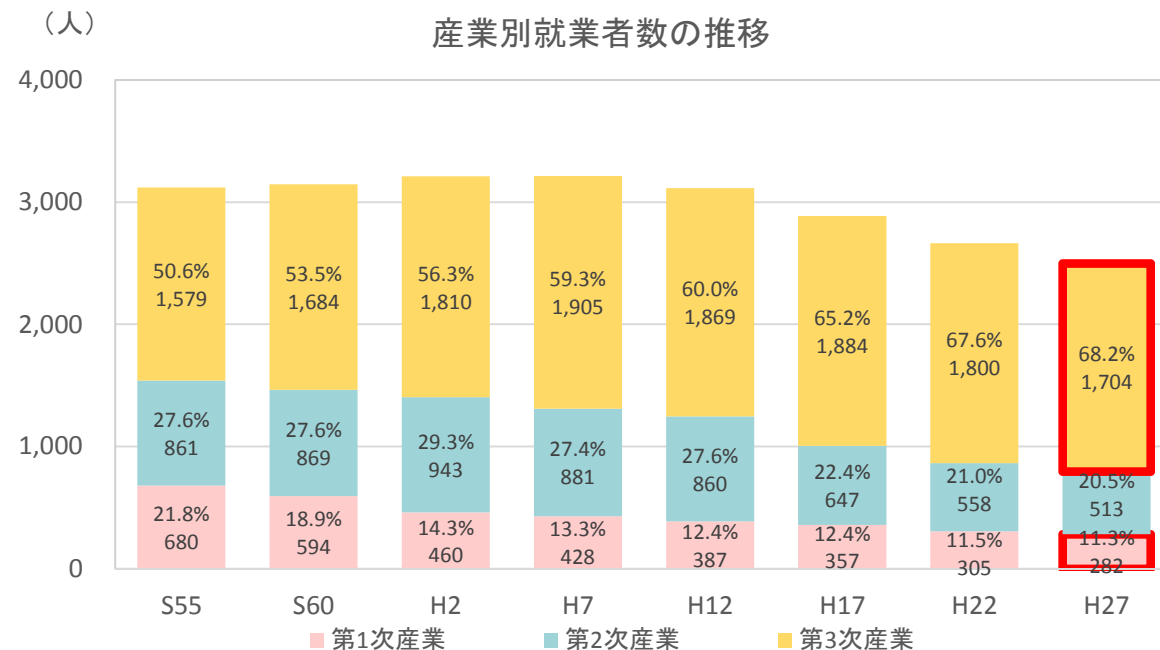
棚田・山裾部における耕作放棄地の拡大



竹林の拡大

就業構造

- 第1次産業就業者数は減少傾向にあり、明日香法制定時（昭和55年）と比較すると実数、割合ともに半数程度となっているが、近隣自治体に比べ、割合が高い。
- 第1次産業の減少とは反対に、第3次産業就業者数の占める割合は増加している。



就業状況

- ・ 村民の約60%が村外で従業しており、特に橿原市への通勤が最も多く、次いで大阪府が多い。
- ・ 村内で働く村外常住者も橿原市民が最も多い。

①明日香村民：村外で就業

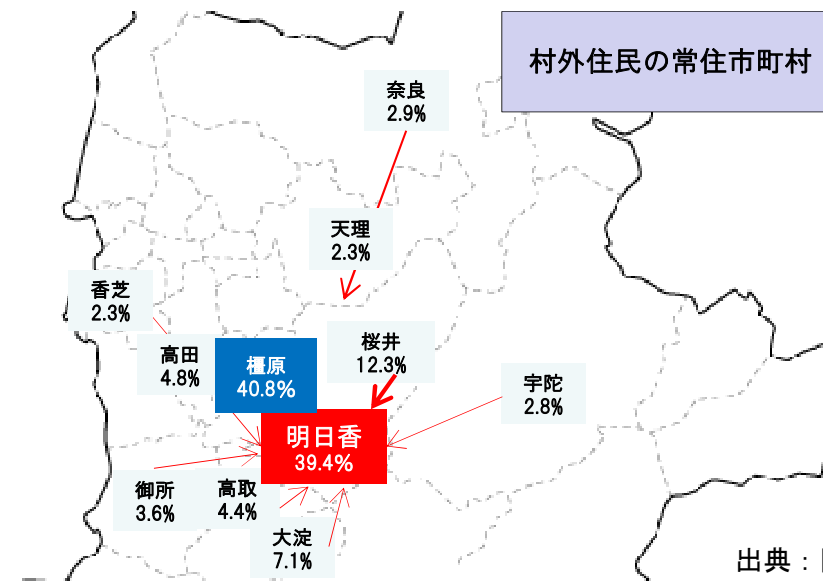
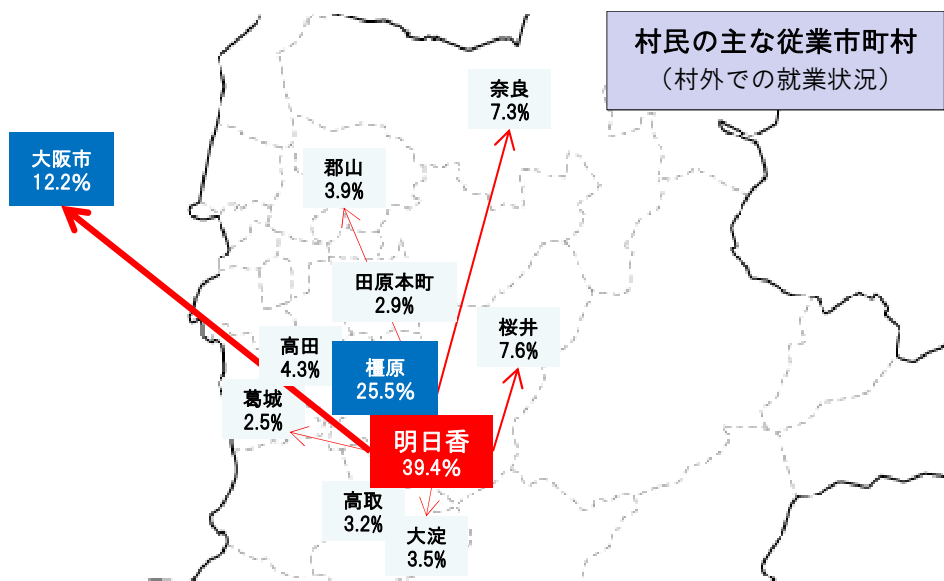
15歳以上の就業者の従業先市町村（上位10市町村）

従業地	(人)	(%)
①橿原市	388	25.6
②大阪市	185	12.2
③桜井市	115	7.6
④奈良市	111	7.3
⑤大和高田市	74	4.9
⑥大和郡山市	59	3.9
⑦大淀町	53	3.5
⑧高取町	49	3.2
⑨田原本町	44	2.9
⑩葛城市	38	2.5
就業者数計	2,528	
うち村内で就業	995	39.4

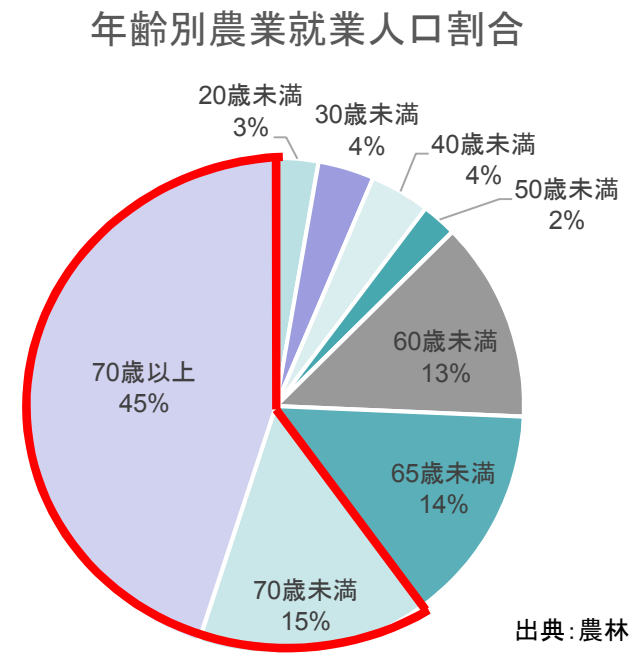
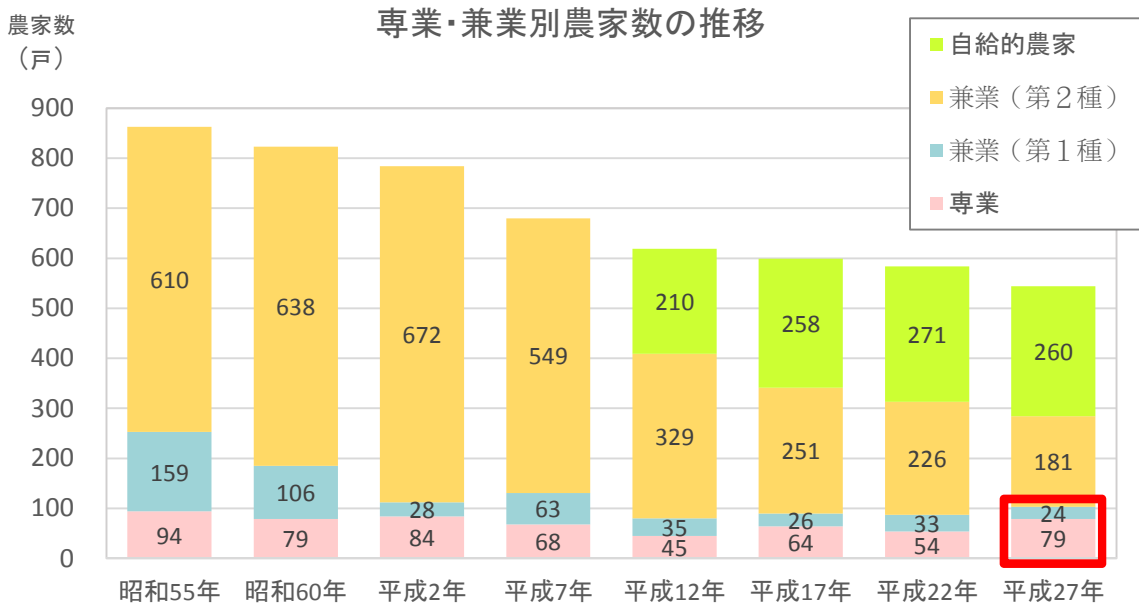
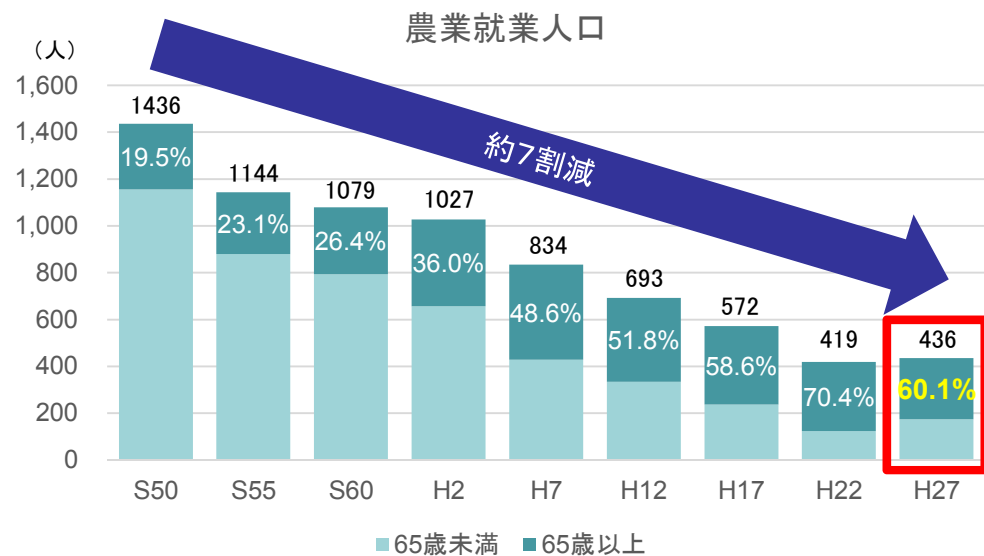
②村外常住者：明日香村で就業

15歳以上の就業者の常住市町村（上位10市町村）

常住地	(人)	(%)
①橿原市	394	40.8
②桜井市	119	12.3
③大淀町	69	7.1
④大和高田市	46	4.8
⑤高取町	42	4.4
⑥御所市	35	3.6
⑦奈良市	28	2.9
⑧宇陀市	27	2.8
⑨天理町	22	2.3
⑩香芝市	21	2.3
就業者数計（転入）	966	



- ・ 農業就業人口は、S50年度に比べて約3割程度まで減少しており、そのうちの約6割が65歳以上と高齢化が進んでいる。
- ・ 専業や農業を主体として生計をたてている農家は、全体の約2割程度にとどまっている。



自給的農家: 経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が年間50万円未満の農家
 兼業(第2種): 兼業所得の方が農業所得よりも多い兼業農家
 兼業(第1種): 農業所得の方が兼業所得よりも多い兼業農家
 専業農家: 世帯員のなかに兼業従事者が1人もいない農家

出典: 農林業センサス

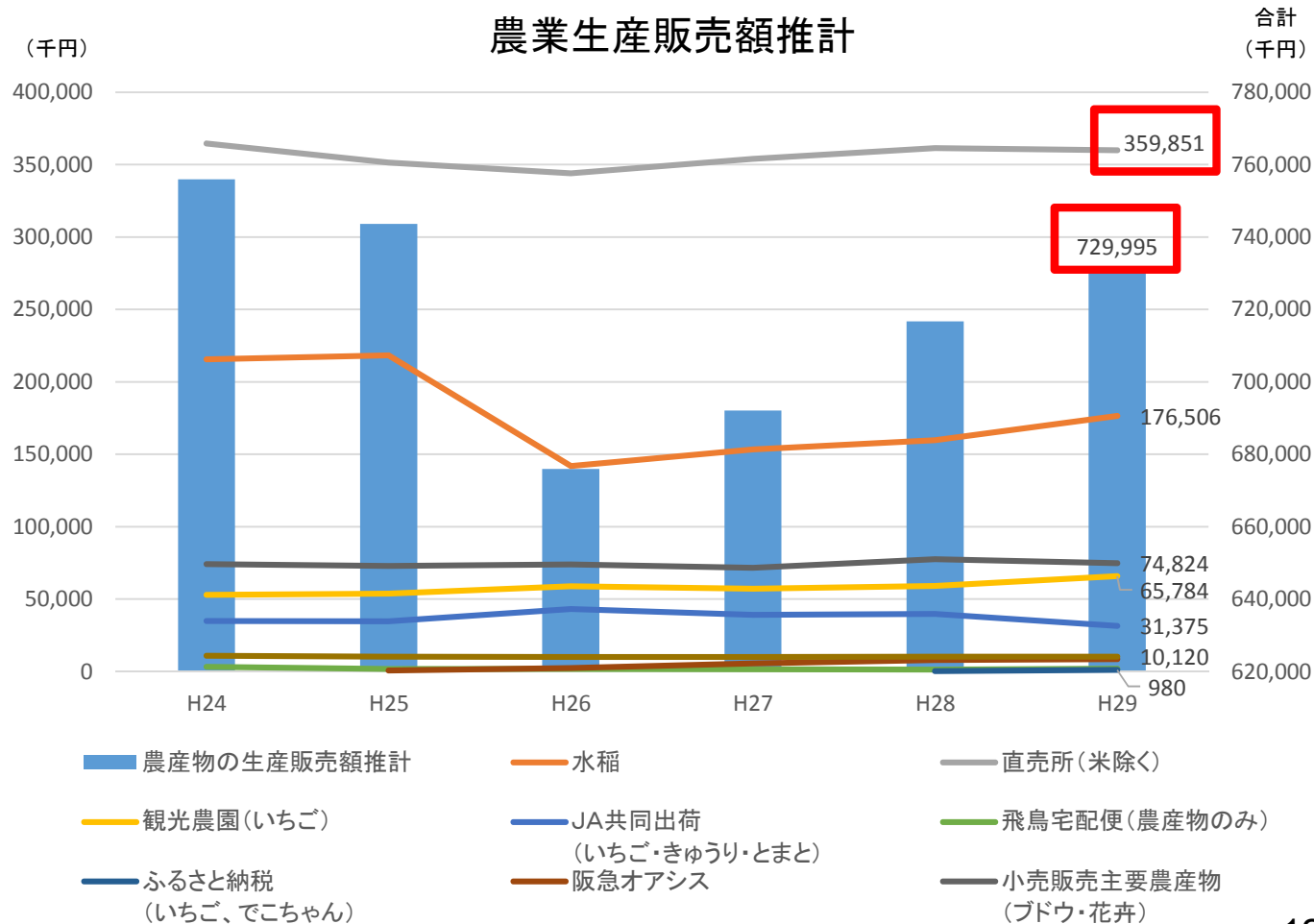
- ・ 新規就農者や村内の後継者については、特に直近数年間で増加傾向となっている。
- ・ 農業生産販売額はH26年以降増加傾向となっており、直売所の売上が全体の約半数を占めている。

<近年の新規就農者>

就農年	栽培品目	面積
H19	にんじん、おくら等	79a
H22	小松菜、ほうれん草等	67a
H24	とまと等	51a
H25	米、きくいも、パクチー等	73a
H25	じゃがいも、ピーマン等	80a
H26	いちご、しょうが、とまと等	38a
H26	ぶどう	43a
H28	いちご	31a
H29	アスパラ、ツルムラサキ等	37a

<近年の村内農業後継者>

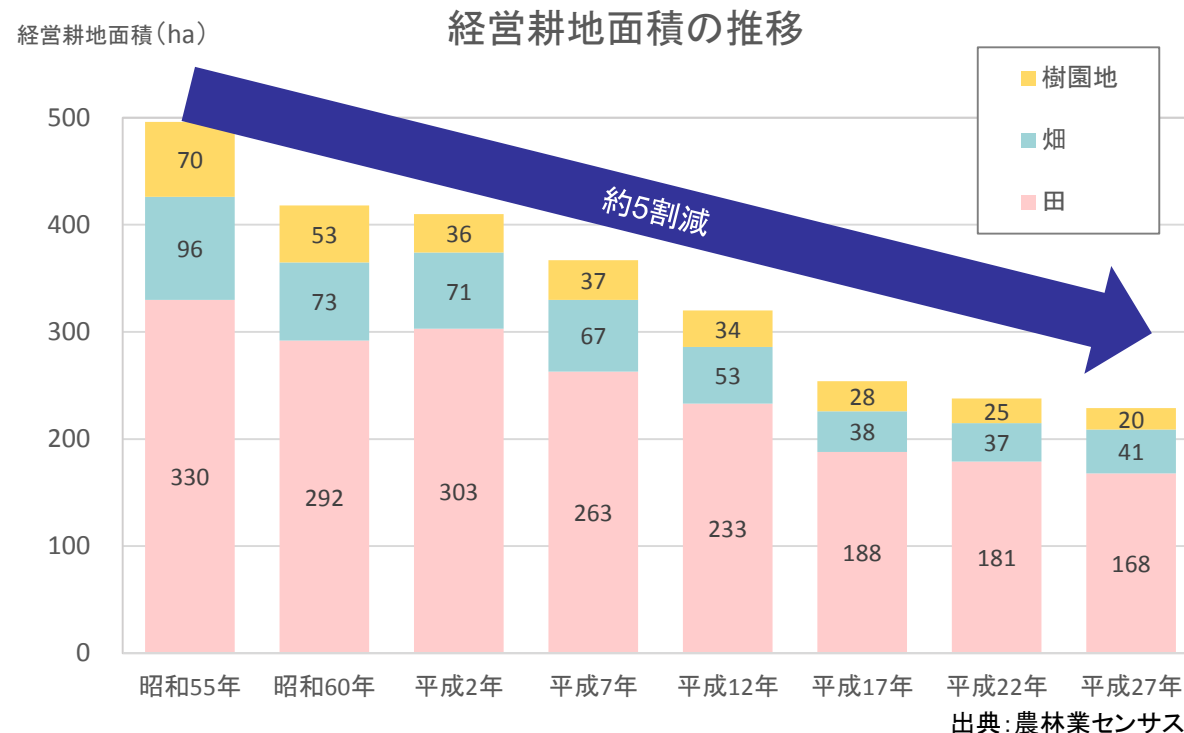
就農年	栽培品目	面積
H16	花	114a
H17	いちご	32a
H21	いちご、きくらげ	58a
H22	柑橘、米	366a
H24	いちご、米	67a
H28	いちご、ミニとまと	355a
H28	いちご、とまと	355a



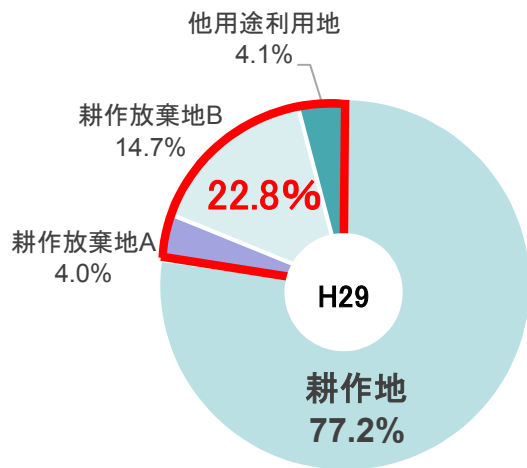
出典: 明日香村調べ

農業(耕作放棄地)

- ・ 経営耕地面積は年々減少
(S55 : 496ha H27 : 229ha 約54%減)
- ・ このため、農地に占める遊休地・耕作放棄地の割合が年々増加し、現在約2割を占めており、田園景観・里山景観への影響が懸念される。



農地の活用状況



耕作地：耕作されている又は年1回以上草刈り、耕起等の保安全管理が行われている農地

耕作放棄地A：1年以上耕作されず、今後も耕作予定のない農地

耕作放棄地B：森林、原野化し、農地として利用できない農地

多用途利用地：道路、建築物等が設置され、多用途に利用されている

出典: H29年度明日香村農業委員会調べ

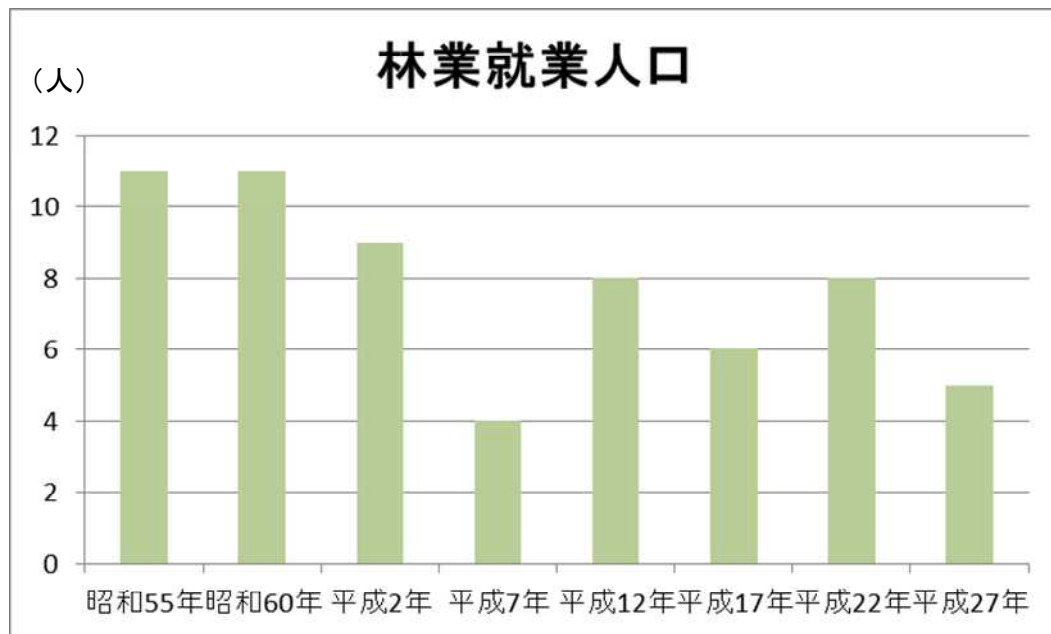


平地水田における耕作放棄地の点在



棚田・山裾部における耕作放棄地の拡大

- ・ 村内の林業就業人口は非常に少なく、林業就業者の確保が課題
- ・ 森林の93%を針葉樹人工林が占めているほか、村内における竹林の拡大等が目立つ。

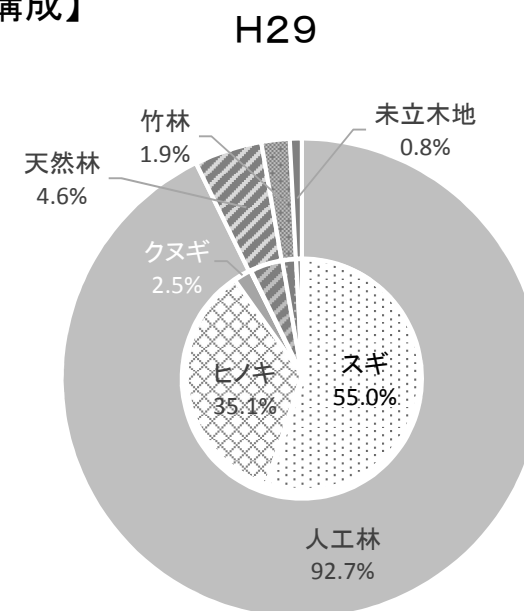


出典：農林業センサス

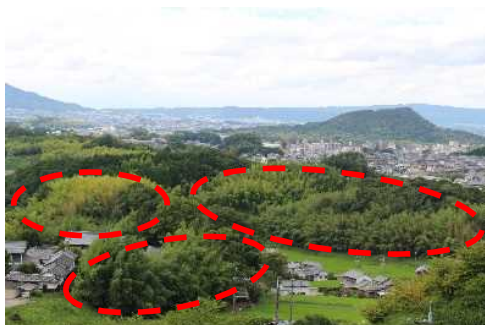
【明日香村森林組合の従業員数（H30.9時点）】

- ・ 職員 4名
- ・ 作業員 10名

【森林の樹種構成】



出典：明日香村調べ



竹林の拡大



森林組合による樹林地管理

農林業【これまでの取組事例】

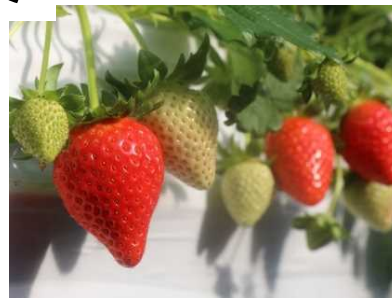
- ・耕作放棄地の増加を踏まえ、農業塾の開催による村内農業者の育成のほか、省力化野菜としてツルムラサキの栽培の推進等に取り組んでいる。
- ・また、6次産業化を推進するため、村内に加工所を設置し、麺類やフリーズドライ商品等の開発も実施。



農業塾を開催し村内農業者の育成



省力化野菜の実証栽培



いちごの栽培普及



商談会

1次産業

2次産業



特産品の開発・製造

3次産業



直売所や農家レストラン



いちごもぎとり



大型店舗での販売

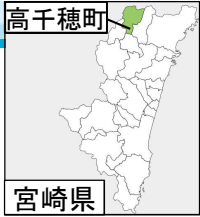


加工所設置



講習

農業振興に係る他地域事例（宮崎県高千穂町 秋元）



○ 地域資源の見直しと地域内体制整備により、女性や若者が生き生きと6次産業化に取り組み、滞在型グリーンツーリズムも大成功。若者が自然と集まり、限界集落の未来をつくるモデル地域となっている。

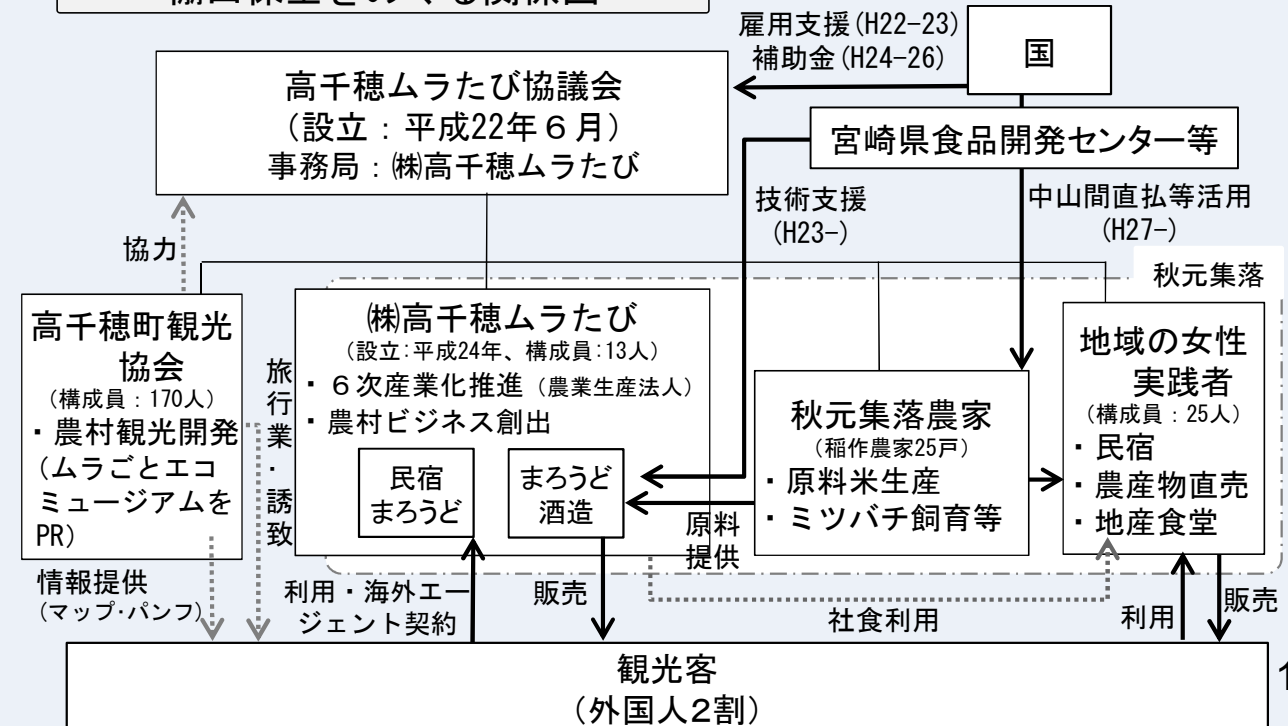
基本情報

- 所在地：宮崎県西臼杵郡高千穂町向山
(高千穂町中心部から車で30分)
- 枚数：119枚
- 耕作面積：約4.3ha
- 耕作率：約100%
- 標高範囲：500m～600m
- 平均勾配：1/6
- 法面の構造：土羽
- 開発起源：不明
- 水源：諸塚山（湧水）
- 保全団体：高千穂ムラたび協議会
- 選定：世界農業遺産認定地域内（H27、高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム）、第3回ディスカバー農山漁村の宝(H28)

地区の特徴、取組効果

- 人口100人のうち60歳以上が7割の限界集落にありながら、①棚田を中心とした農村景観や地域の神話史跡を活かしたムラづくり（ムラごとエコミュージアム）と、②地域の女性たちが運営する古民家食堂や民宿で希少な地産食材を提供することで、年間3万人以上の交流人口を創出している。
- 移住者を含む若者が中心となった(株)高千穂ムラたびでは、集落農家と共同で原料米の供給体制を構築し、高値で買い取った棚田米から、専門機関と連携してどぶろく・あまざけを生産し、約1億円の売上から雇用や地域還元の域内経済循環を創出している。

棚田保全をめぐる関係図





☆ 任意団体としてのスタートがカギ
 協議会としての助走期間(H22~23)を設け、法人化後の倒産リスク回避。
 宮崎県の雇用対策支援(H22~23)

竹かづら、銀粘土、牛脂石けんに取り組むも、競合品に勝る優位性がなく、失敗。
 民宿も赤字。旅行者のニーズ分析と地域の特性分析との突合ができていなかったことが原因。

食と地域の交流促進対策交付金(H24~26)を活用し、「世界に通用するものづくり」と「食や観光の魅力づくり」を基本理念に、観光と連携した農村産業(直売、食堂、民宿、加工、ムラごとエコミュージアム)の創出と滞在型旅行モデルのモニタリングを実施。

きっかけ
 田舎で働き隊の若者たちがアンテナショップを開催し、触発された女性たちが無人直売所「いろはや」を開設(H21)

Step 1 (H22)
ムラたび協議会の設置
 ○これらの取組に対して、現場でマネジメントする人が必要と感じた行政マンが早期退職し、法人格を持たない協議会を設置。
 ○地域資源の見直しと多角的農村ビジネスを検討。加工と民宿を試行

Step 2 (H23~)
どぶろく造り
 ○旧牛舎を改装し個人事業として製造開始
 ○県の食品開発センターに協力依頼

Step 3 (H24)
㈱ムラたびの設立(法人化)
 ○どぶろく「千穂まいり」完成
 ○民宿試行後3年目で初の黒字
 ○その他、体験事業(夜神楽体験)等



☆ 専門機関の利用がカギ
 研究開発部門を破格値で外注しているようなもの。開発当初からの情報蓄積により、トラブル回避も容易に。輸出の市場開拓はJETROに相談。

古民家を改築し、地域の女性による地産食堂「しんたく」を開設。

☆ 滞在交流型がカギ
 地産食材による接遇や体験・現地ツアーの実施で民宿ファンを獲得

Step 4 (H26~)
あまざけ販売
 ○製薬メーカーと連携し、乳酸菌入りあまざけ「ちほまる」完成

☆ こだわり商品としての営業がカギ
 類似しない付加価値(乳酸菌)と秋元の神秘的なストーリーとを結びつける。デザインと情報の高度化も重要。

☆ 情報発信がカギ
 多様な販路を開拓

Step 5 (H27~)
原料の共同生産体制整備
 ○どぶろく・あまざけ生産の本格化により、住民連携による原料米の共同生産体制を整備。耕作放棄地の復田と、今後耕作困難になった場合の耕作請負合意。
 ○助成は共同利用機械の購入、食堂の駐車場整備等に活用。

秋元集落、中山間直接支払交付金導入(H27~)

Step 6 (H29~)
クラファン活用
 ○クラウドファンディングのサイトを利用したオーダーメイドどぶろくの販売

フランス旅行会社との2年契約等

食堂の収益増のため、㈱ムラたびの社食として利用開始(H28~)

いま (H29)
 ○棚田の耕作率100%
 ○新規雇用2人(雇用者数14人)、研修生年間8人
 ○民宿の利用者は600人(H29)。どぶろく・あまざけの売上は1億円(H29)

今後の展望

将来に向けて

- ☑ 生産規模・外国向け販路拡大
- ☑ 旅行者の滞在拠点づくり
- ☑ 他地域へのコンサルティング活動



○ 模範的なオーナー制度と体験学習で都市農村交流を通じた地域活性化のモデル事例となっている。

基本情報

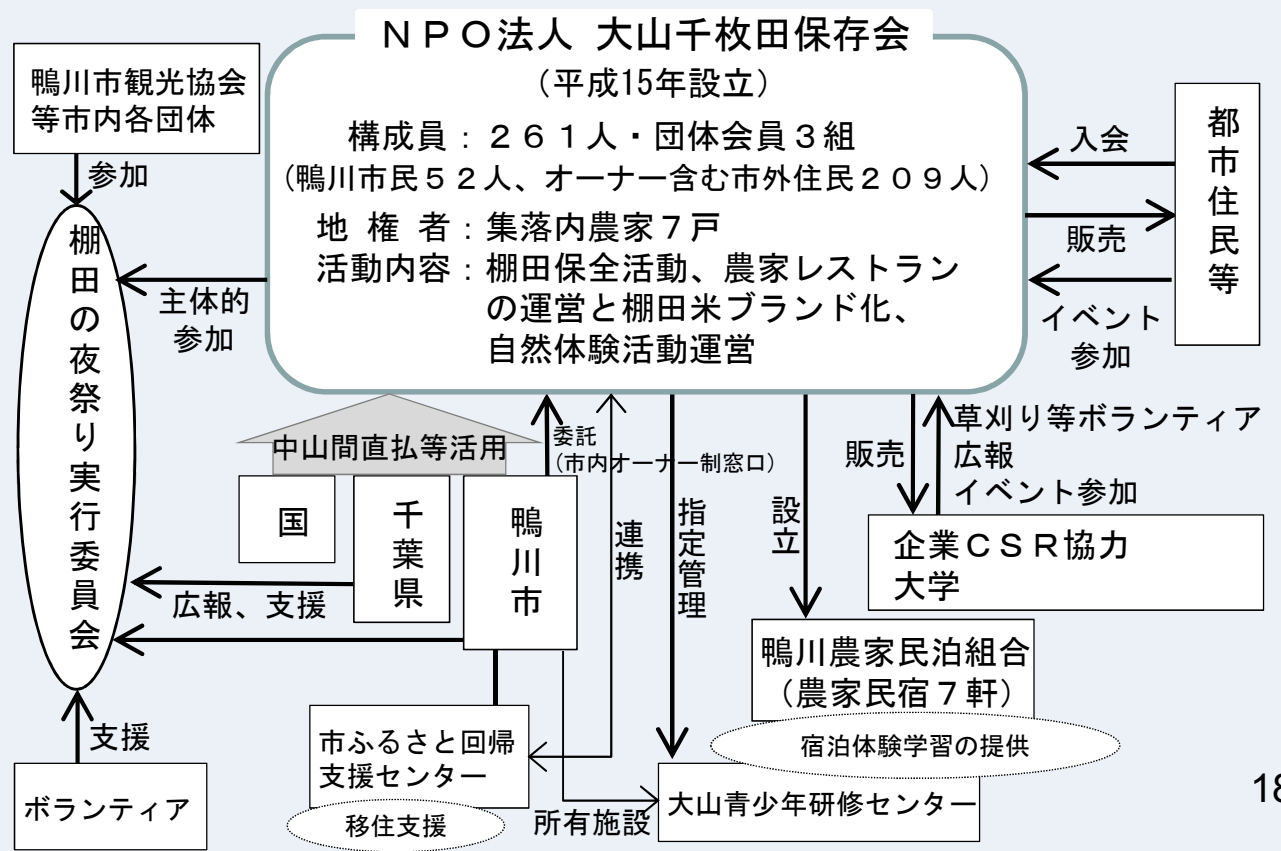
- 所在地：千葉県鴨川市釜沼かもがわし かまぬま
- 枚数：375枚（JR安房鴨川駅から車で30分）
- 耕作面積：約3.2ha（棚田オーナー制2.3ha）
- 耕作率：約99%
- 標高：200m
- 平均勾配：1/5
- 法面の構造：土羽
- 開発起源：江戸時代
- 水源：天水
- 保全団体：NPO法人 大山千枚田保存会
- 棚田オーナー制：154組（H10～）
- 選定：日本の棚田百選(H11)、千葉県名勝(H14)、オーライ！ニッポン(H15)、重要里地里山(H25)



地区の特徴、取組効果

- 江戸幕府の直轄牧であった嶺岡牧跡につながる棚田は、都心から2時間弱で行ける「東京から一番近い棚田」として知られ、全国でも唯一天水だけで水源を賄っている。来訪者数は年間3万人を超え、鴨川市の重要な観光資源となっている。
- 棚田オーナー制度を中心に、棚田トラスト、大豆畑トラスト、酒づくりオーナー、綿藍トラスト、家づくり体験塾など、農家の知見や地域資源を活用した様々なプログラムを用意。年間5,600人以上の児童・生徒等が体験学習を行っている。

棚田保全をめぐる関係図



出典：棚田キラーコンテンツ化促進ガイド(平成30年7月)(全体版)〈農水省農村振興局地域振興課〉

【事例】 棚田オーナー制度を中心に地域活性化に取り組む

☆地域の課題解決意識と行政との連携がカギ

棚田や文化、自然環境を地域資源と捉え、地域住民が地域づくりに対して課題意識を持ち、行政が活動の出発をサポートをすることが大事



きっかけ

H7、地域の衰退に危機感を募らせた住民が、農村の活性化を目指す事業の導入を市に要請し採択

Step 1 (H9)

大山千枚田保存会発足

- 検討を重ね、大山千枚田を核とした地域振興を図ることを決定。
- 都市住民の参加を促し、地権者、地域住民、都市住民の77人で発足。景観整備(復田)を開始

事務能力に長けた主婦、ITに強いITターン者等地域住民の活躍で棚田の知名度が高まる。

Step 2 (H10~)

棚田オーナー制

- 先進事例に学びながら検討を開始。
- 通年の農作業体験を試行。地域の意識が変わり始め、H12からオーナー39組で本格導入

マスコミ関係者、営業マン等多様な経歴のオーナーが来訪し、多くが保存会にも登録。

中山間地域等直接支払交付金(H12~)

棚田百選(H11)

鴨川で第8回棚田サミット開催(H14)

多くが都市住民の意見で開設。

Step 3 (H15~)

体験学習

- 自然観察、里山ウォーキング、郷土料理づくり、わら細工等実施。酒づくりオーナー(H16~)、藍染め(H17~)、家づくり体験塾(H18~)等、取組拡大。

荒廃した竹林の整備と再利用を、観光地としての知名度アップと各団体との連携強化につなげる。

Step 4 (H15~)

NPO法人化

- 法人化により指定管理の受託や補助金の取得が可能となり、広範な事業展開に寄与。
- 新たに移住したオーナーが役員を担うほか、後に専任職員も雇用。

市内他地区もオーナー制度開始。事務局となり、募集から運営まで関わる。(H16~)

製薬会社の労働支援活動(H18~)

Step 5 (H18~)

棚田のライトアップ

- 観光業者、旅館業者、住民、行政とで実行委員会を設立し、竹とバイオディーゼルを用いて、環境と観光の両立を目指したライトアップイベントを開始。高校生が松明設置。
- ロングラン開催に向けてLEDライト導入(H25~)

☆ ニーズの把握がカギ

小学校を中心とする体験宿泊学習と二地域居住のニーズの高まりを捉え、周辺環境調査や体制整備を実施「新たな公」事業を活用(H20~21)



都市農村共生・対流総合対策交付金を活用(H27)

Step 7 (H28~)

農家レストランの営業開始

- 古民家を再生し、酪農発祥地という地域の歴史と食文化を伝えるためのレストラン開始。

環境財団の助成を受けビオトープ造成(H24)

研修生の受け入れ、体験プログラム開発(H27~)

農山漁村振興交付金を活用(H27~29)

説明会やマニュアル作成により農家民宿は7軒に拡大。国内外から宿泊学習の受入れを実施。(H23~)

受け入れキャパを増やしたいが、多くの農家が様子見。

Step 6 (H21~)

鴨川農家民泊準備会設立

- 市のふるさと回帰支援センターと二地域居住を推進する中で、宿泊場所のニーズを把握。二地域居住の窓口を増やす目的で4軒の農家で農家民泊準備会を設立。農家民宿の営業許可を取得し、営業開始。
- H22、農家民泊組合に発展。

将来に向けて

- ☑ 農と福祉と教育の連携
- ☑ 担い手の育成
- ☑ 農家民宿の拡充

今後の展望

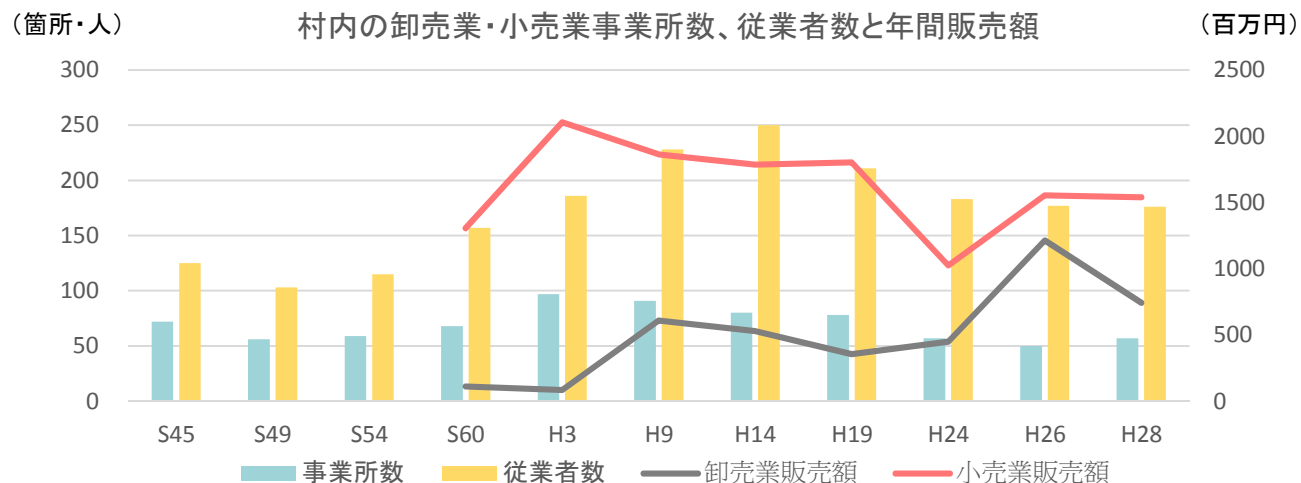
いま (H29)

- 棚田オーナー制度の拡充(154組)
- 体験学習の受入れの充実(学校の体験学習等5664名)
- 農家レストランの充実(売上げ860万円)

商工業(卸売業・小売業、製造業)

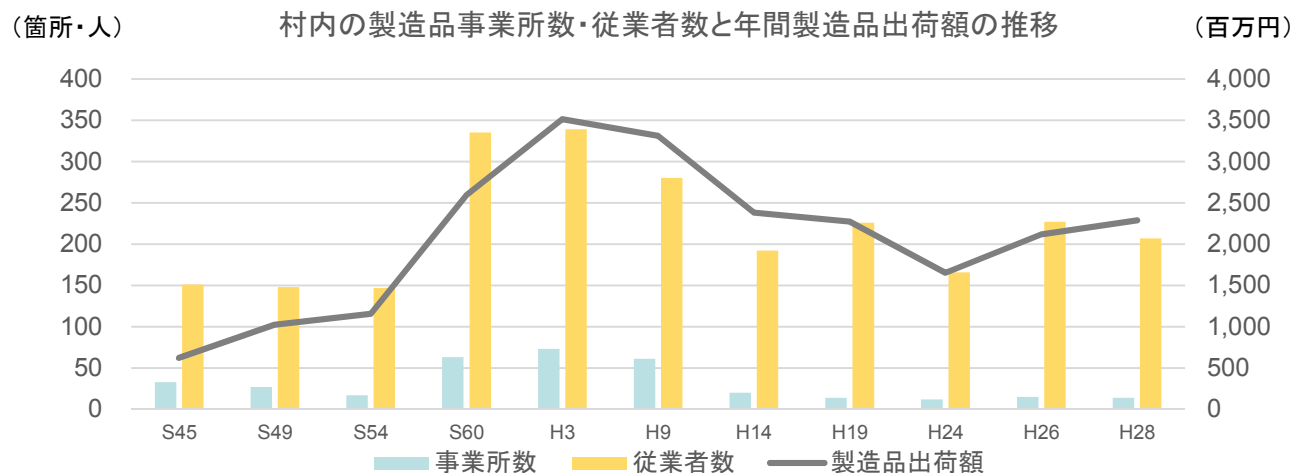
1. 卸売業・小売業

事業所数は平成3年をピークに、従事者数は14年をピークに、ともに減少している。



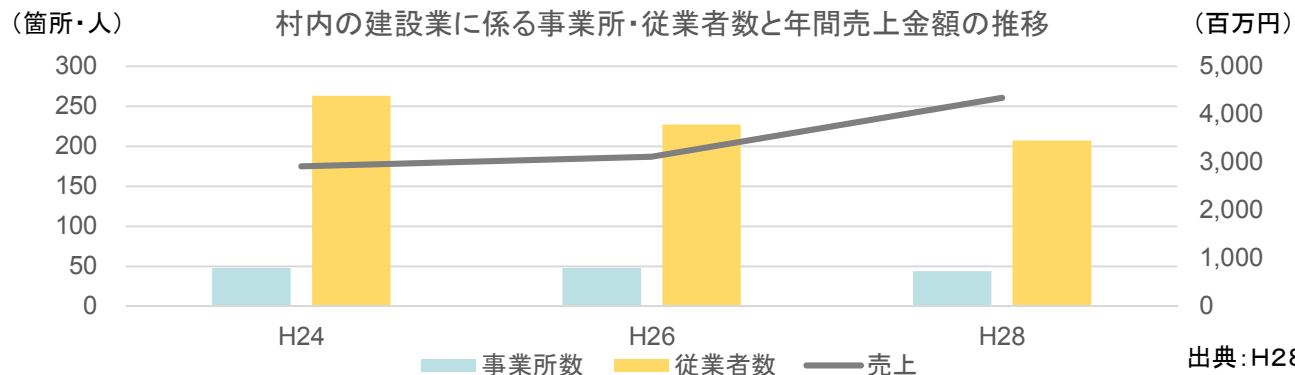
2. 製造業

平成3年をピークに事業所数、従業者数ともに減少傾向である。



3. 建設業

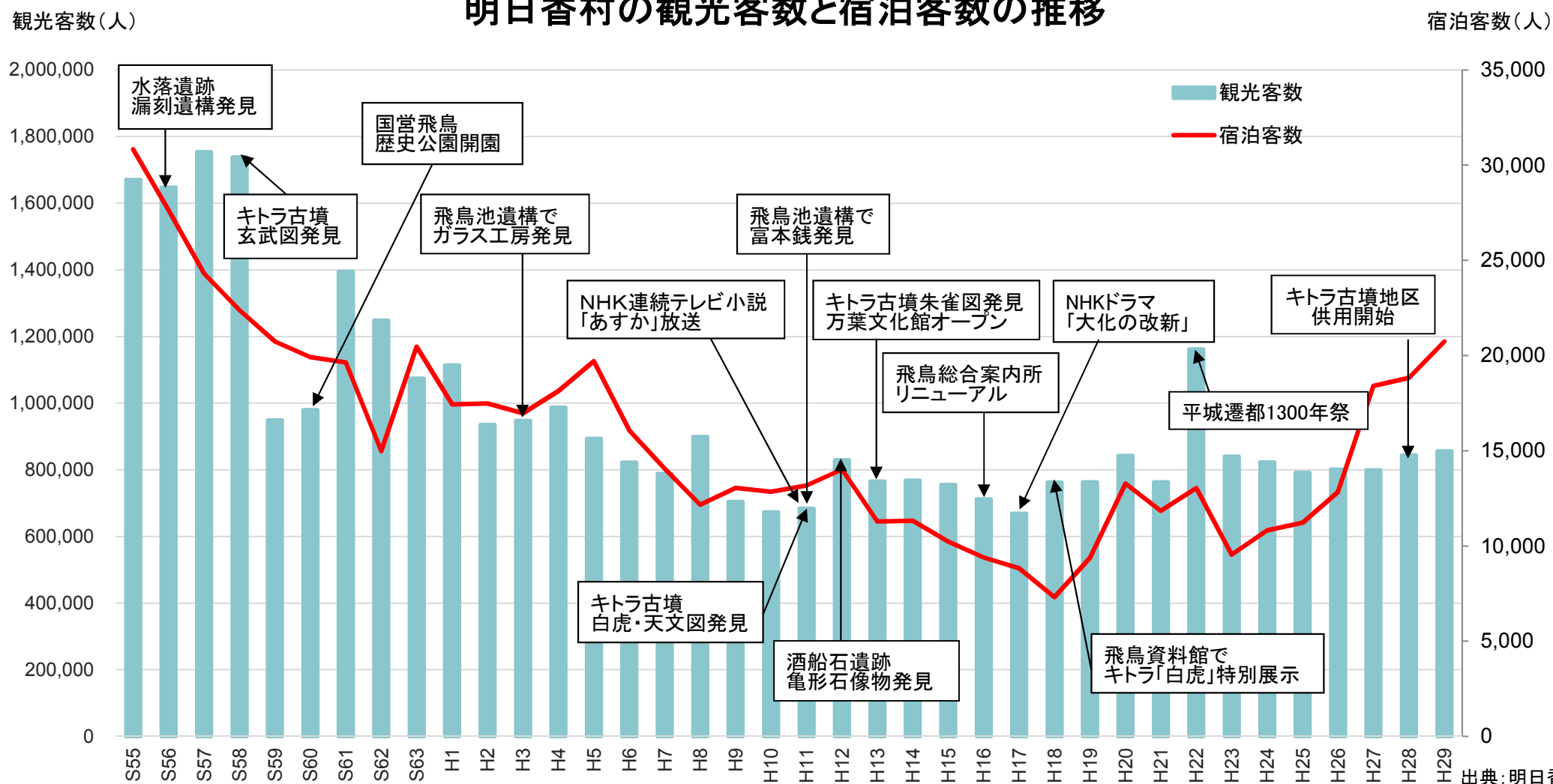
近年は、従業者数は減少しているものの、売上は増加している。



観光【観光入込客数の推移】

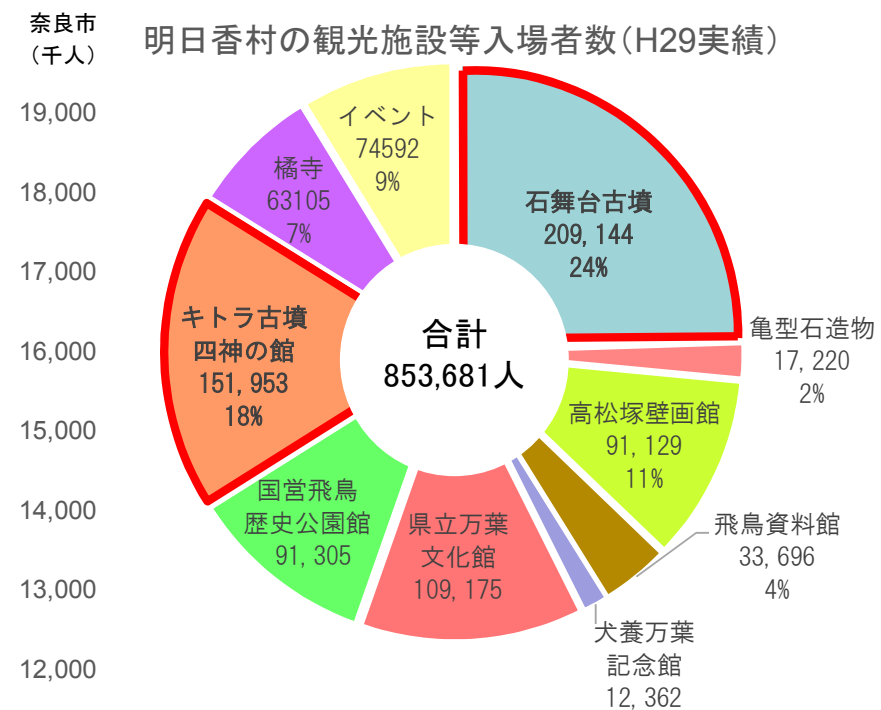
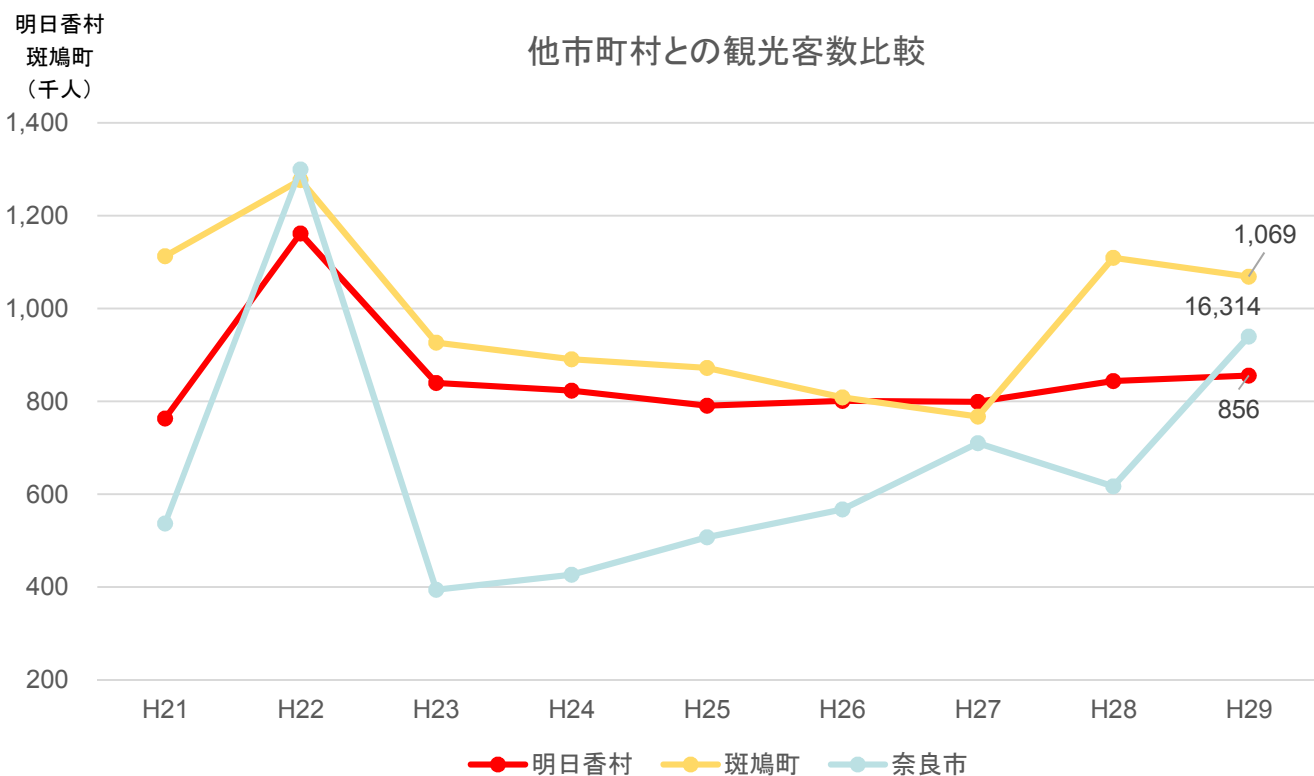
明日香村を訪れる観光客数は、高松塚古墳壁画が発見された後、いわゆる飛鳥ブームとなった昭和50年代のピーク時には年間約180万人を越えていた。その後、国営飛鳥歴史公園の開園、飛鳥池遺構の工房の発見、キトラ古墳の壁画発見、酒船石遺跡の亀形石造物の発見などの直後は観光客数が増加。近年では平城遷都1300年祭で120万人に迫る勢いを見せた。現在は約80万人前後で推移している。

明日香村の観光客数と宿泊客数の推移



観光【観光入込客数の推移】

- ・ 県内の市町村と比較すると、どの自治体もH23年に減少したのち、近年増加傾向が見られるが、明日香村においては微増に留まっており、更なる集客を呼び込むことは可能と考えられる。
- ・ 明日香村内の観光施設のうち、「石舞台古墳」に観光客全体の約25%が訪れているとともに、平成28年9月に開園したキトラ地区の「四神の館」は年間15万人以上の集客があり、主要な観光施設として活用されている。



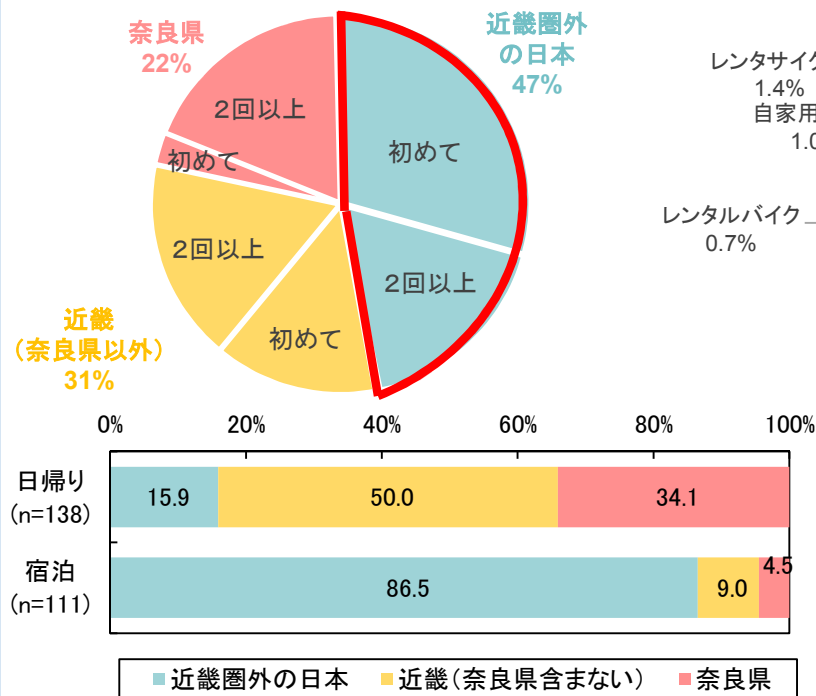
出典: 明日香村調べ

観光【観光客の特徴】

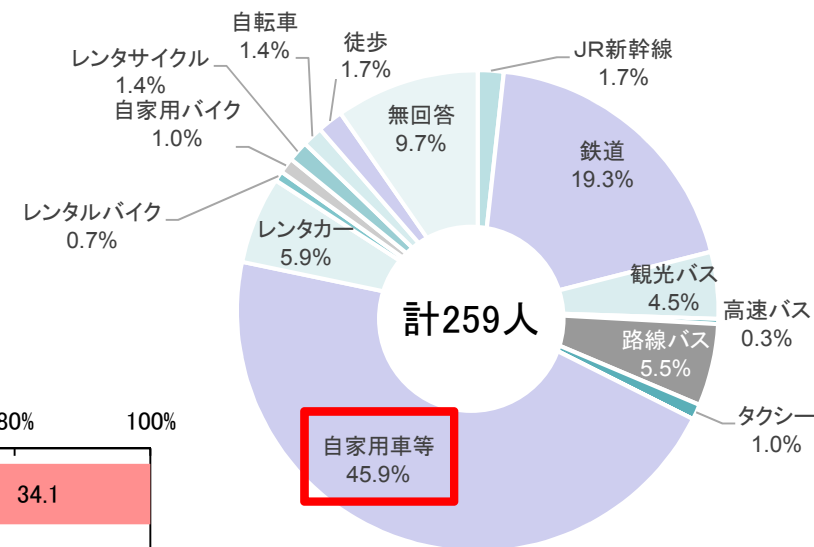
明日香村の観光客の特徴

- ・ 近畿圏外からの国内観光客が全体の5割弱を占めており（H24：約12%）、近畿圏内の観光客に比べて、初訪問の割合が高い。
- ・ 60代以上が約45%を占める。（H24：約42%）
- ・ 観光客の4割以上が自家用車で訪問しており、鉄道は2割程度である。
- ・ 村内の周遊手段としては、自家用車の割合が高いものの、徒歩または自転車約3割を占める。

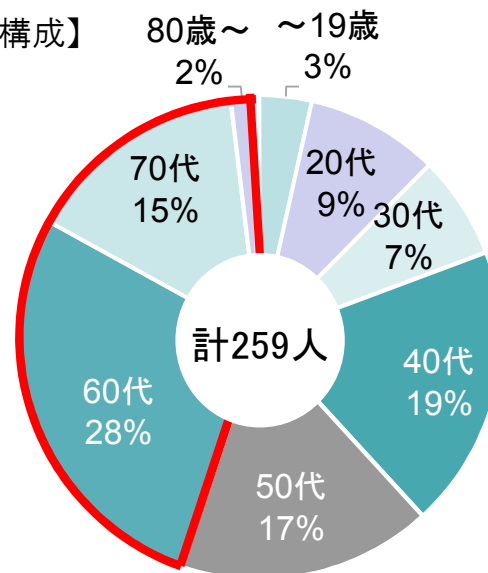
【居住地】



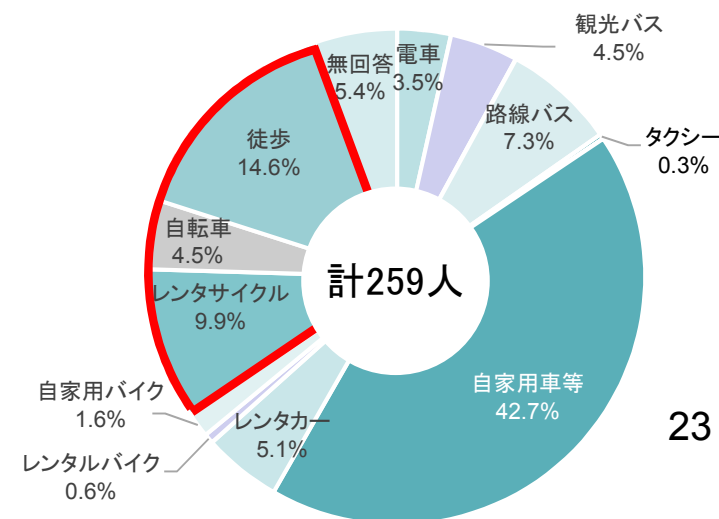
【明日香へ来るために利用した交通機関】



【年齢構成】



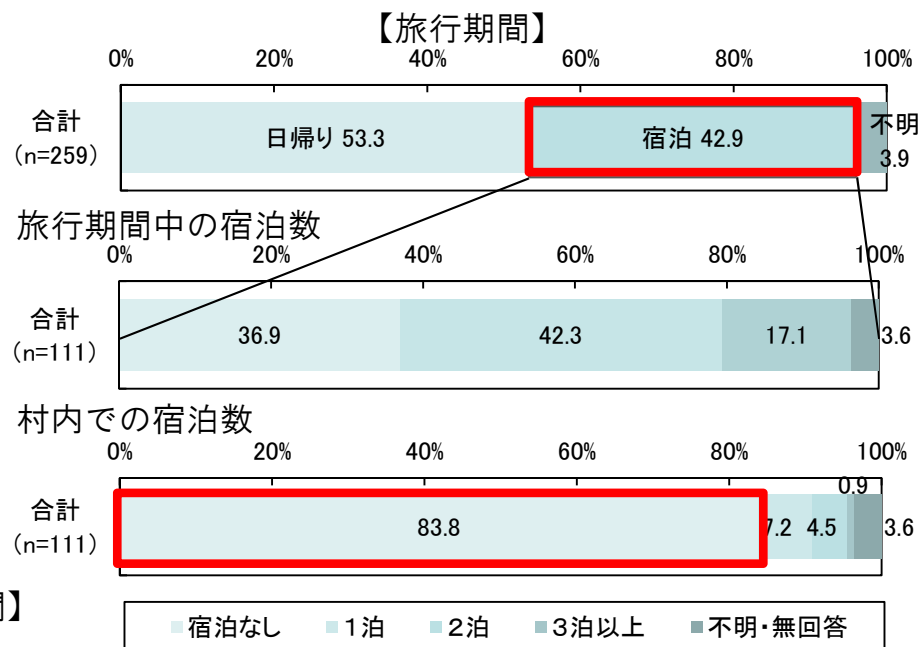
【明日香村内の周遊に利用した交通機関】



調査名	「明日香村観光動向調査」
調査地域	明日香村内の観光地 3地点(石舞台古墳・キトラ古墳・飛鳥寺)
調査対象者	村内の観光地3地点を訪れた観光客 回答者数:(H29) 259
調査期間	平成29年10月21日(土) 11月4日(土)
調査方法	調査員による面接聞き取り調査

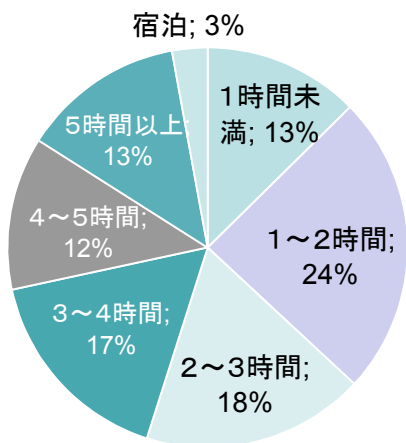
観光【観光客の特徴】

- ・観光客の約4割は宿泊しているものの、そのうちの8割以上が村内で宿泊せずに移動している。
- ・明日香村内での1人当たりの平均観光消費額は、村内宿泊をしている観光客の方が消費金額が大きい傾向にある。
- ・観光客の8割以上は、歴史遺産を期待して訪問しており、旅行満足度も非常に高い一方、期待以上の満足度を示したのは「まちなみ景観」など限定的であるほか、体験型観光の期待・満足度が非常に低い傾向となっている。



出典：明日香村観光動向調査

【国営公園滞在時間】



国営飛鳥歴史公園利用実態調査業務(平成30年3月)

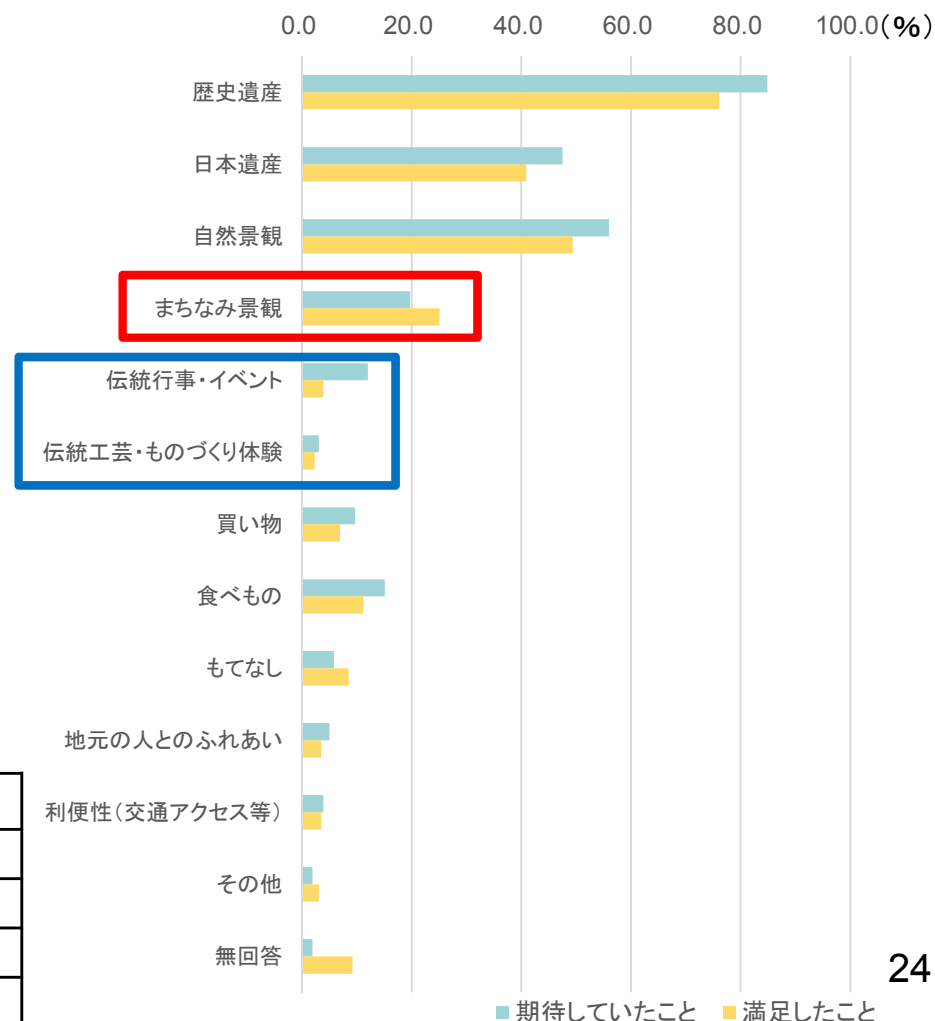
【使用金額】

	観光客(平均)	宿泊客(平均)
交通費	2,185円	6,163円
飲食費	2,735円	3,278円
土産代	3,390円	3,680円
入場料	823円	1,804円
宿泊費		10,977円

出典：明日香村観光動向調査

出典：明日香村宿泊客動向調査

【明日香村を観光した感想】

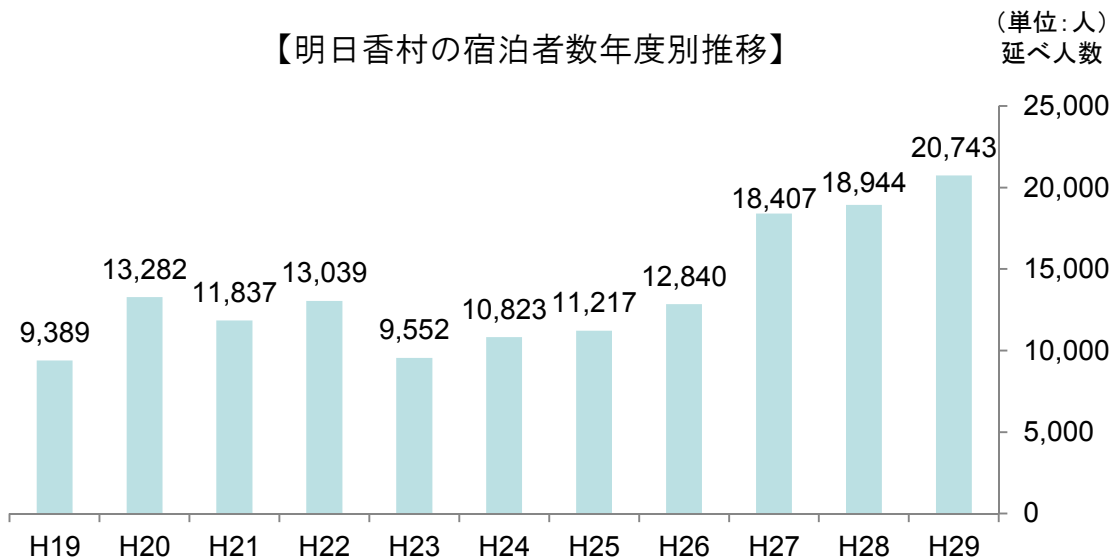


出典：明日香村観光動向調査

観光【観光宿泊客の特徴】

- ・明日香村の宿泊者数は、H23以降増加傾向が見られ、H29年度調査では、宿泊者の4割以上は60歳代が占めている。
- ・また、明日香村以外に観光先としては、奈良市の次に京都府が多くなっている。
- ・県内の宿泊施設は旅館・簡易宿所の施設数や定員数の割合は大きいものの、客室稼働率は50%以下となっている。
- ・明日香村においては、宿泊施設数が少なく、宿泊観光の受入れ環境が確保できていない。

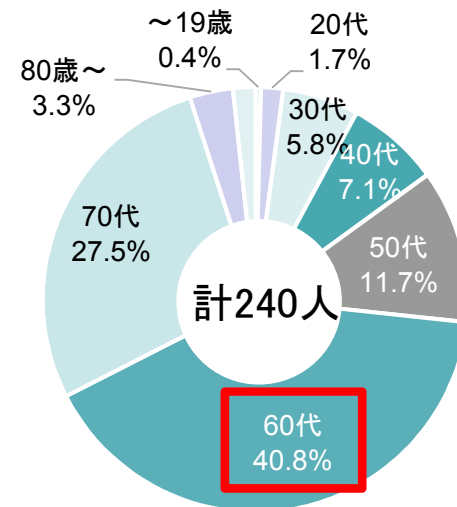
【明日香村の宿泊者数年度別推移】



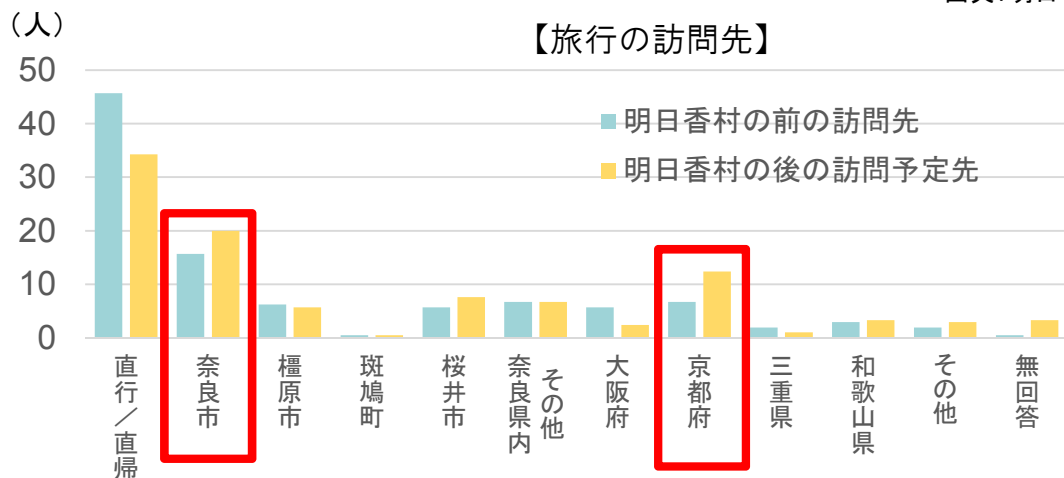
出典: 明日香村調べ

調査名	調査地域	調査対象者	調査期間	調査方法
「明日香村宿泊客動向調査」	明日香村内の宿泊地9地点	村内の宿泊地9地点で宿泊された観光客 回答者数: (H29) 240人	平成29年10月～11月	フロントでの手渡しによる調査

【宿泊者年齢構成】



【旅行の訪問先】



出典: 明日香村宿泊客動向調査

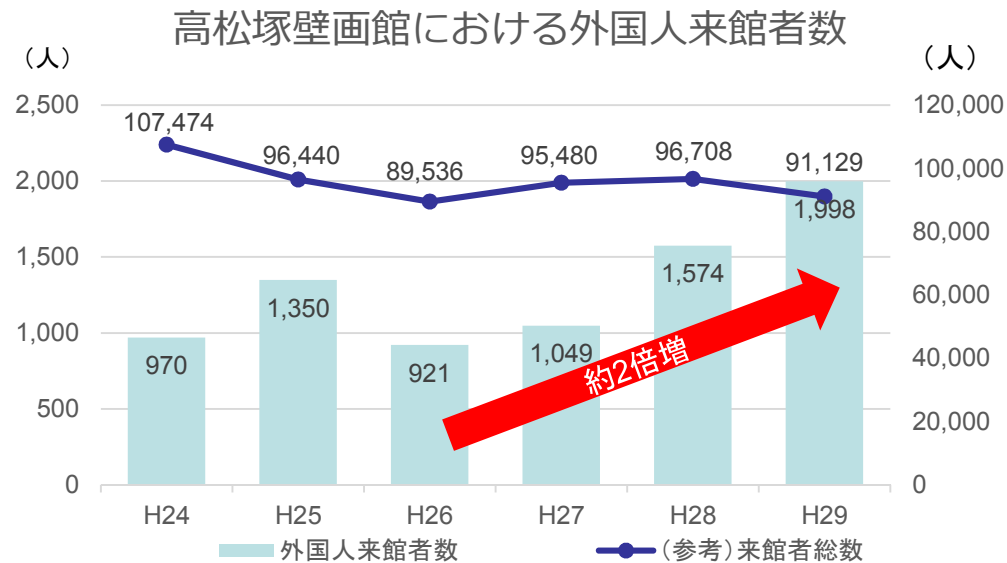
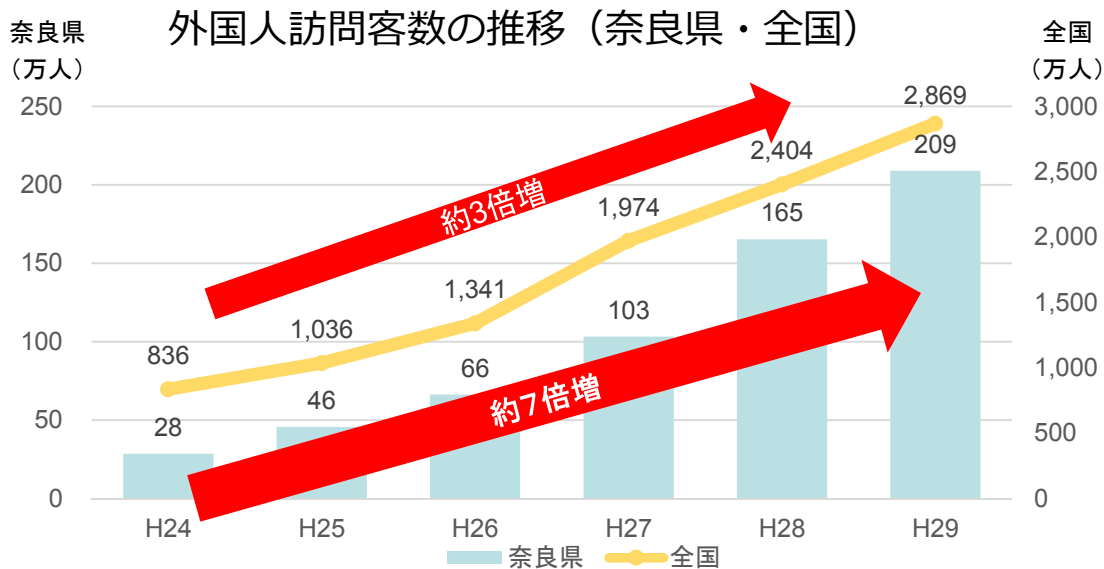
【奈良県内・明日香村内の宿泊施設の状況】

	奈良県内				明日香村		
	宿泊施設数(件)	客室数(室)	定員数(人)	客室稼働率(%)	宿泊施設数(件)	客室数(室)	定員数(人)
旅館	174	2457	10200	46.0	3	24	127
ホテル	47	3833	7856	75.0	1	12	34
簡易宿所	200	973	5077	26.6	13	46	152
合計	447	8036	26907	61.7	17	82	313

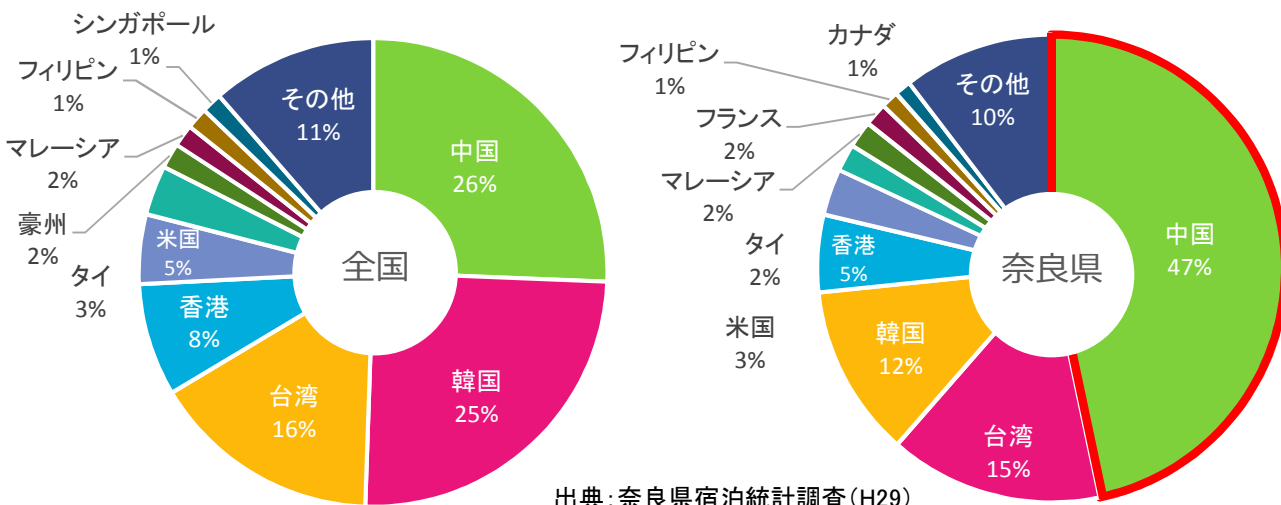
出典: 奈良県観光統計調査 明日香村調べ

観光【外国人観光客の状況】

- ・奈良県は全国的に見ても近年の外国人訪問客数が大きく増加（H24→H29：約7倍増）しており、特に中国人の訪問が多い。
- ・明日香村の高松塚壁画館では、約2倍程度増加（H26→H29）しており、韓国人の訪問が85%を占めている。

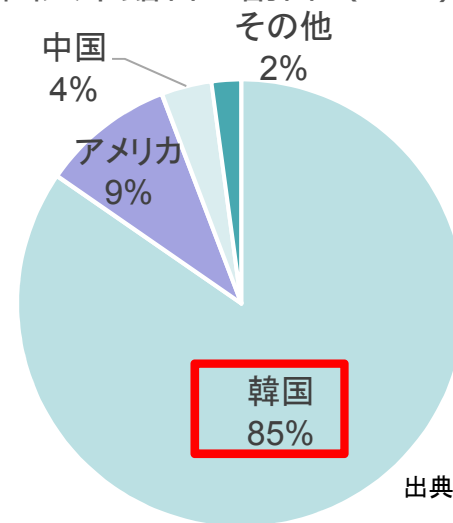


外国人訪問客数・国別割合（平成29年）



出典：奈良県宿泊統計調査(H29)

外国人来館者の割合（H28）



出典：明日香村調べ

観光【これまでの取組事例】

明日香村 ◆古民家の活用による宿泊施設等の整備

○ゲストハウスの整備

- ・宿泊施設の不足状況を改善するため、地域の企業、団体、住民が協同で設立した(株)J-rootsが、クラウドファンディングで資金調達し、築110年の古民家をゲストハウスに再生。
- ・クラウドファンディングでの投資の動機づけとして、ツアーや郷土料理でのおもてなしを盛り込んだファンド説明会を開催。宿泊券や特産品を特典とするなどの工夫で平成28年11月時点で約1,270万円の資金を調達している。
- ・古民家改修によるゲストハウスの整備・運営に当たっては、クラウドファンディングで調達した資金のほか、国の補助金活用、地元の南都銀行からの融資等を明日香村商工会が経営支援し、(株)J-rootsが運営している。



整備後のゲストハウスの外装と内装(提供:(株)J-roots)

○産業活性化バンクの活用

- ・空き家バンクの制度に加え、H27年度より古民家等を店舗等の商業目的に活用する事業者を仲介する「産業活性化バンク」制度を実施。
- ・建築物の所有者や事業者に対し、賃料や改修工事に対する補助金を整備し、活用を促している。
- ・現在、9件の民家活用が成立しており、コミュニティスペースやカフェ等の飲食施設として活用されている事例が来ている。



整備後のコミュニティスペース&カフェ

明日香村 ◆飛鳥認定通訳ガイド

- ・H29年度に、構造改革特区制度により、飛鳥地方に対する外国人観光客の多様なニーズに対応し、魅力を伝えられる人材を育成することを目的とした、「飛鳥認定通訳ガイド特区」が認定された。
- ・これにより、橿原市・高取町・明日香村において、通訳案内士の資格を取得せずに、指定される自治体が開催する研修を修了、登録をした者が区域内において報酬を得て特例通訳案内士の活動を行うことが可能。
- ・H30.4時点で、34名が合格し、活動を開始している。



新たに認定された「飛鳥認定通訳ガイド」

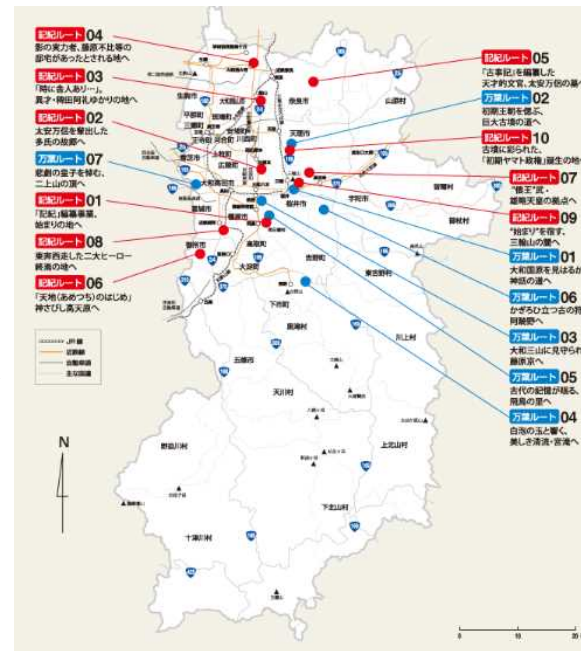
観光【これまでの取組事例】

国交省・奈良県 ◆観光ルートの設定

・県では、明日香村を含む中南和地域を中心として、古事記が編纂された712年の1300年後にあたる2012年から、日本書紀が編纂された2020年までの9年間に渡る「記紀・万葉プロジェクト」を展開。

・本プロジェクトにおいて、県内に残る記紀・万葉集をはじめとする歴史素材を活用し、施策の一つとしてガイドブックを作成し、その中で、観光ルート等の紹介するほか、HPを作成してPRを行っている。

・また、観光庁では、訪日外国人旅行者の地方誘客に資するテーマ・ストーリーを持ったルートの形成を促進するため、「広域観光周遊ルート形成促進事業」を実施しており、H28.4には関西広域連合等から提案された世界遺産と日本の精神文化に触れるモデルコースが認定された。本コースについては、海外への情報発信や旅行商品の造成の促進等を実施している。



記紀・万葉ウォーク

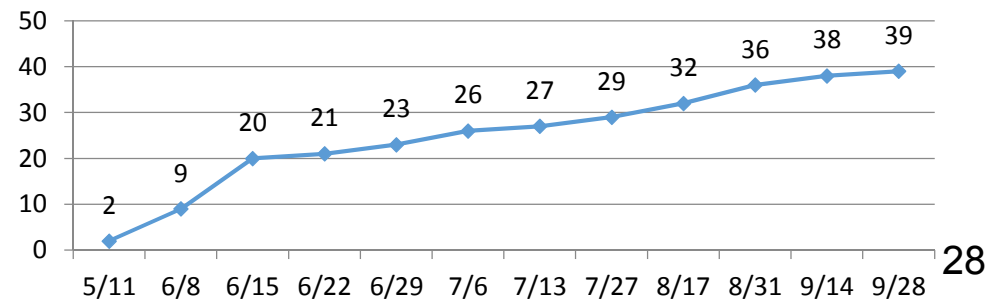
観光庁認定
「美の伝説」広域観光周遊ルート

奈良県 ◆民泊に係る最近の動向

・奈良県では、住宅宿泊事業法がH30年6月15日に施行され、本法に基づく県条例が制定されたことを踏まえ、県内で奈良市を中心に計39件の届出が受理されている。

・明日香村でも、今後住宅宿泊事業を活用しながら民泊の推進を図っていく。

住宅宿泊事業届出受理件数



出典：奈良県調べ

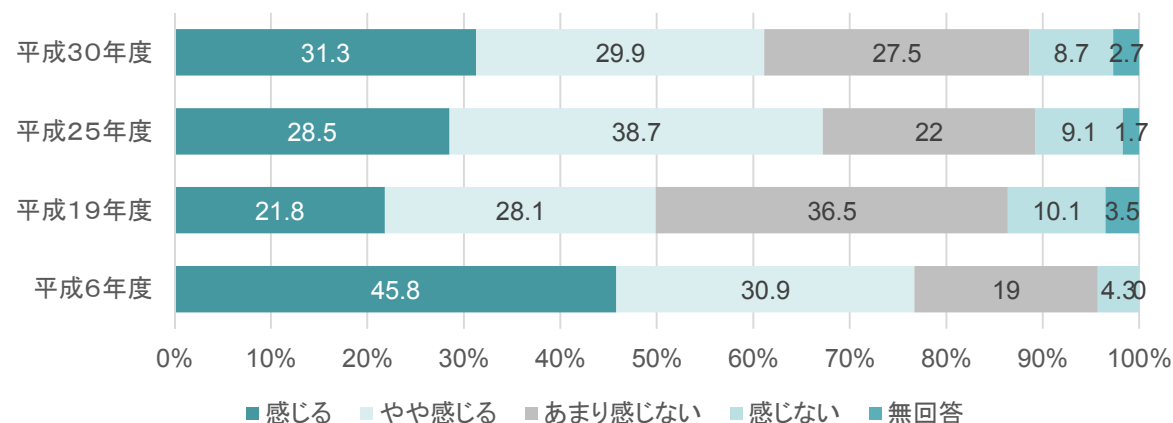
村民アンケート（古都法に基づく規制感）

- ・ 歴史的風土保存のための規制を感じる人の割合は、平成19年度に減少したが、その後、増加に転じている。
- ・ 一方、村民の定住意向は、過年度に比べて最も高くなっている。

○古都法に基づく規制に対する意識

- ・ 平成30年度村民アンケートでは、歴史的風土保存のための規制を「感じる」とした人が31.3%と増加した。
- ・ 平成6年度からの推移をみると、明日香法による規制感が平成19年度で薄らいでいたが、その後年々規制感が強まっている傾向にある。

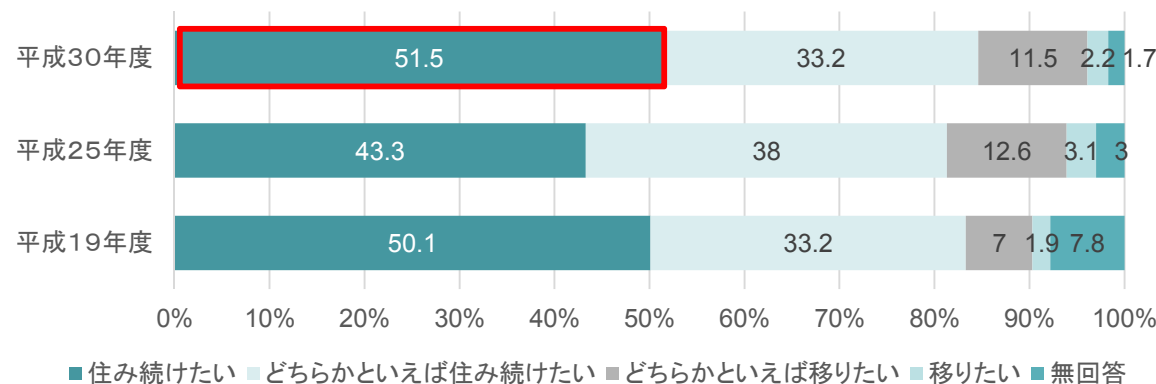
明日香法による規制を不便に感じるか



○定住意向

- ・ 平成30年度における村民の今後の定住意向は、「住みたい」とした人の割合が51.5%と最も高かった。

明日香に住み続けたいか

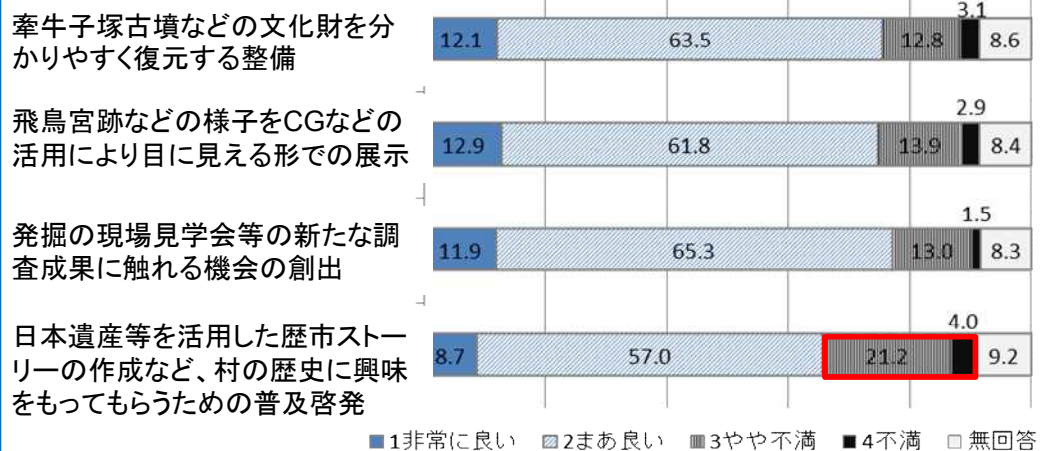


村民アンケート（歴史風土を守り伝えるための施策）

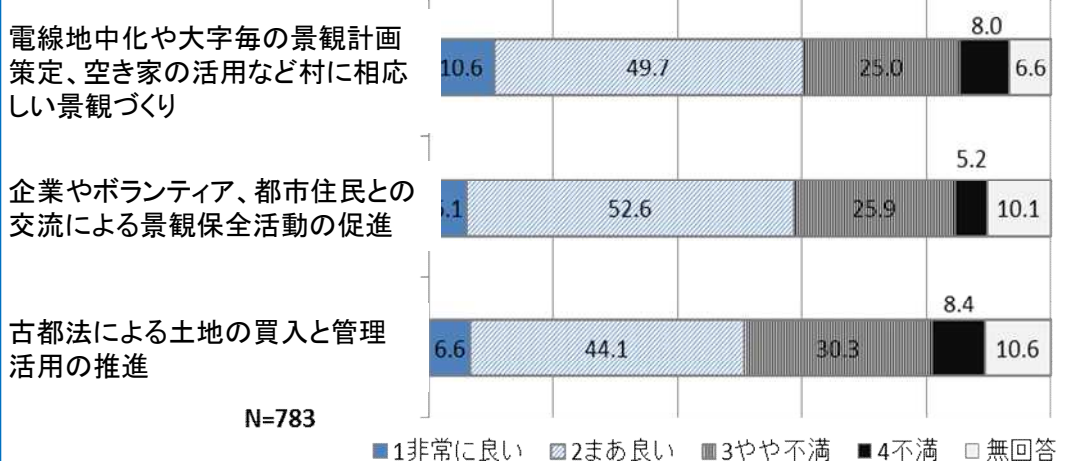
- ・ 歴史的風土を守り伝えるため、歴史展示にかかる現行施策のうち、村の歴史に興味を持ってもらう普及啓発が最も不満が高く、今後の重要度も最も高かった。
- ・ 景観の維持に係る現行施策のうち、今後の重要度としては、無電中化や空き家活用などが高かった。

取組の評価

➤ 歴史展示

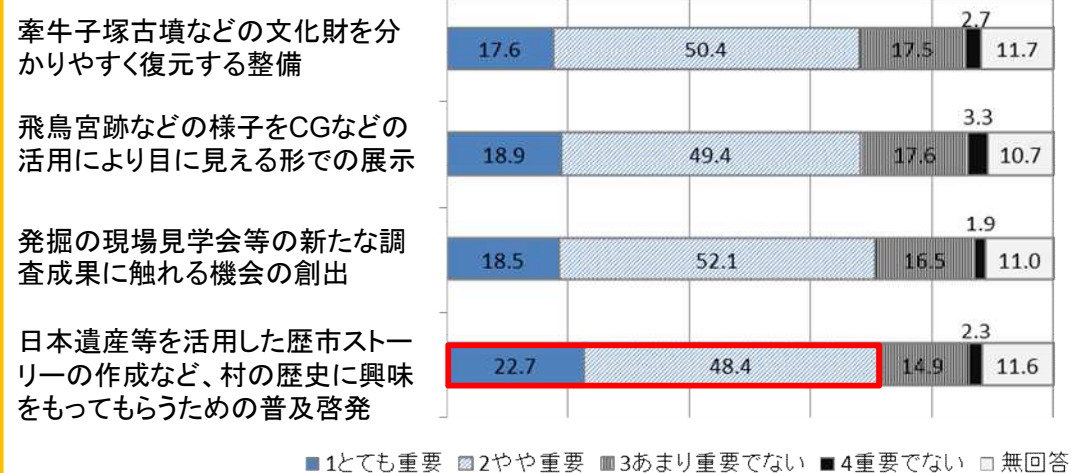


➤ 景観の維持

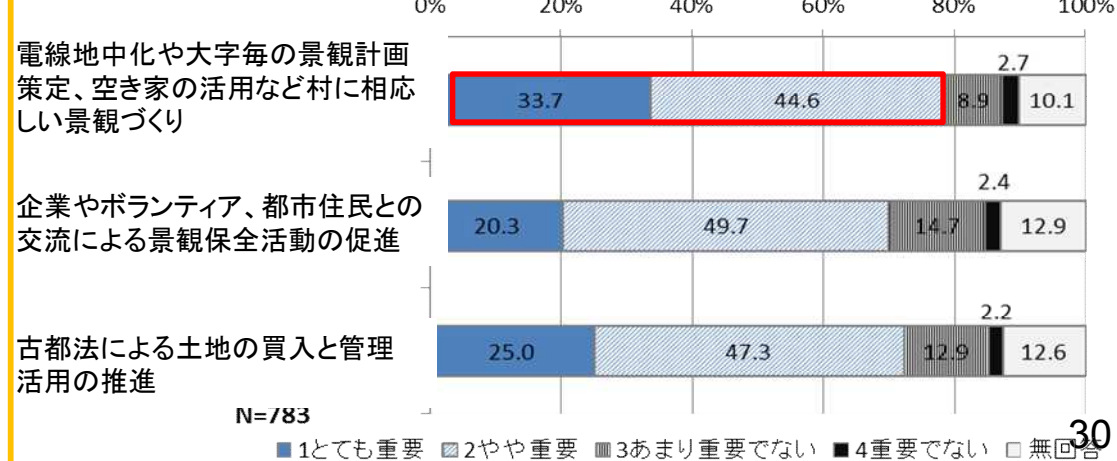


今後の重要度

➤ 歴史展示



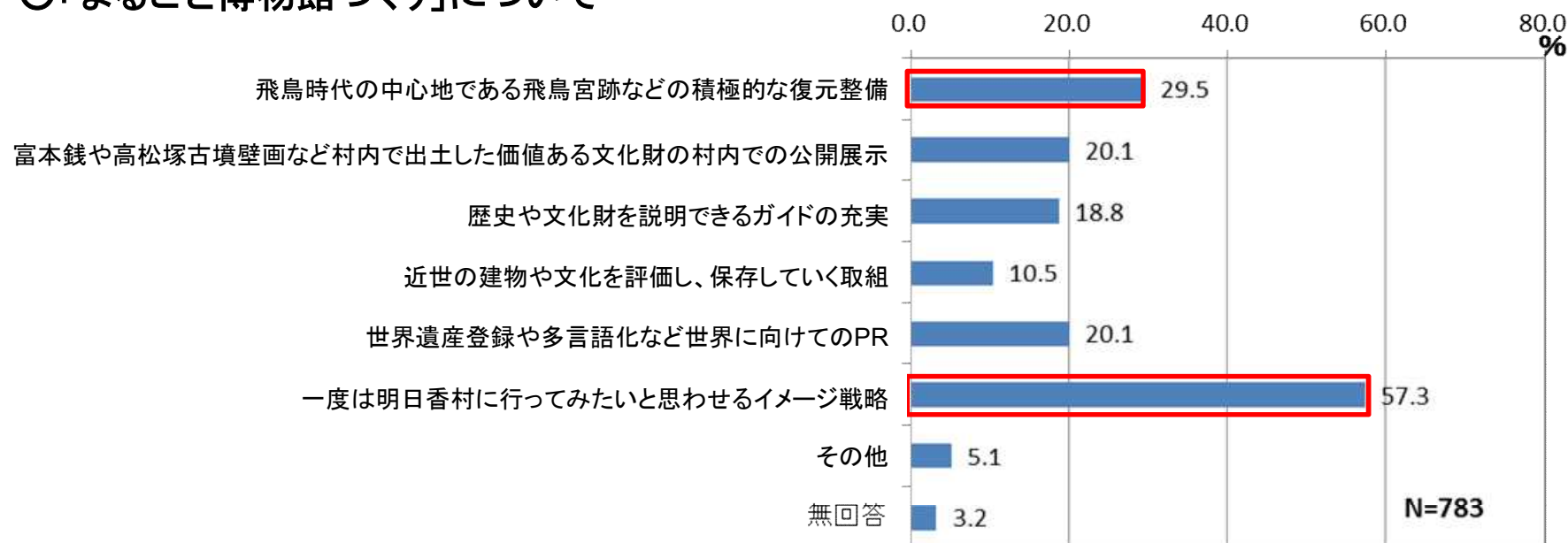
➤ 景観の維持



村民アンケート（まるごと博物館について、定住意向）

・まるごと博物館づくりの中で、観光の活性化に有効だと思われる取組として、6割程度が「一度行ってみたいと思わせるイメージ戦略」を挙げ、3割程度が「積極的な復元整備」を挙げた。

○「まるごと博物館づくり」について



（参考）「まるごと博物館づくり」とは

明日香村では、村づくりのエンジンとなる施策の分野である

- ・村全域に広がる「文化財」、
- ・明日香法や村民の努力により守られてきた「景観」、
- ・それらを支えてきた「農」、
- ・これらすべてを経済活動の活性化につなげることのできる「交流産業」

を「戦略的施策」として位置づけ、その魅力を高めることで『「明日香」を感じることができる、もてなしの村づくり』を目指す「まるごと博物館構想」を推進し、交流人口・定住人口の増加と地域経済の活性化を目指している。